KIURFC

クラブ便り

春シーズン開幕号 2015.3.18

平成 27 年度 第 1 号

京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆田代前会長より会長退任のご挨拶◆

～田代芳孝(S48・日比谷)～

漸く春の兆しが感じられる今日このごろとなりました。会員の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から京都大学ラグビーフットボールクラブ（KIU R.F.C.）に多大なご支援を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、すでにお聞き及びかと思いますが、去る 2 月 21 日に開催されました第 10 回定例評議員会におきまして、私儀、会長を退任し、後任の会長に石田徳治氏（昭 48 年卒）が選任されました。

顧みますと、2006 年 2 月の KIU R.F.C.の新体制の発足以来、和田前々会長の下で 3 期 6 年間、代表幹事を務め、その後、2012 年から和田前々会長の後任として、１期３年、会長を務めさせていただきました。

この合計９年の間に、皆さまのご協力により、宇治グラウンドの芝生化、クラブハウスの建設という大きな事業を遂行することができました。また、エジンバラ大学、ロンドン大学、台湾大学との交流試合、さらには 2012 年の創部 90 周年など、さまざまなイベントを実行することができました。A リーグへの復帰という悲願達成はなりませんでしたが、皆様のお陰様を持ちまして、クラブの運営も安定してきたことから、安心して、後任に引き継ぐことが出来ます。「期満ちて去るは、春来たりて、雁 北に帰るが如し」というところでしょうか。

後任の石田徳治氏につきましては、皆様ご承知のとおり、現役時代は大学選手権にも出場し、関西学生代表にも選ばれた名選手であり、KIU R.F.C.発足後は、副会長を務める傍ら、強化委員長や宇治の芝生化やクラブハウス建設の実行委員長を務めるなど、これまでもクラブの運営に深く関わっていただいています。石田新会長の下で、より一層クラブとしての結束を強め、現役チームの強化・支援やクラブとしての活動の深化を図っていただきたいと願います。

さて、小職につきましては、今後も KIU R.F.C.の一会員として、クラブの発展のための尽力は惜しまないつもりでありますが、また、日本ラグビーフットボール協会の理事としてもまた、引き続きラグビーに関わって参ります。ワールドカップやオリンピックのセブンズに加えて、2016 年 2 月からは、南半球の強豪チームで構成するスーパーラグビーのリーグ戦に日本チームも参加することとなり、ラグビーはますますインターナショナル化しています。その中で、まだ先進国に学ばなければならないこともいろいろあります。それらに関わりながら、KIU R.F.C.の発展にも資する日本のラグビーの発展のために、微力を尽くしていきたいと考えております。

これまでの皆さまのご協力に厚く御礼申し上げ、会長退任のご挨拶と致します。

◆石田新会長より会長就任のご挨拶◆

～石田徳治(S48・追手門学院)～

日頃から京都大学ラグビーフットボールクラブ（KIU R.F.C. ）の活動にご協力、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて私儀、先の KIU R.F.C.第 10 回定例評議員会において KIU R.F.C.会長に選任され、この度就任致しました。副会長に就任した小野田さん（S52 卒)、夏山さん（S54 卒）、代表幹事の岡市さん（S59 卒）や執行幹事の方々、会員の皆さんとともに、KIU R.F.C. の活動を盛り上げていきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

定例評議員会も今年で第 10 回を迎え、KIU R.F.C.が発足して早や 10 年になります。私自身も当初から和田さん（S36 年卒前々会長）、田代さん（S48 年卒前会長）に協力してその運営に関与し、宇治グラウンドの芝生化やクラブハウスの建設等、いろいろな取り組みを行ってきました。その経験を通して、次の３つのことの重要性を特に強く感じています。

１．クラブ運営とクラブ各員からのご協力

クラブ会員から多くのご支援・ご協力を頂いており、その 1 つとして会費納入があります。クラブ発足前後は 500 万円に満たないこともあったと記憶していますが、昨年度は 740 万円と 50%UP にもなりました。これは多くの残存課題もある中で、クラブの運営に一定のご理解を受けている結果と認識しております。今後、皆さんのご意見も伺いながら、さらに多くのご支援・ご賛同を頂けるようなクラブ運営に取り組むつもりであります。

２．京大ラグビー部の強化

いうまでもなく KIU R.F.C.の原点は京大ラグビー部です。昨年度の戦績は B リーグ 8 位という結果のように、残念ながら近年 B リーグ下位に留まっています。あの大阪体育大学も B リーグに転落したようにリーグ戦は益々厳しい状況にはありますが、現役や監督団を支援して、まずは B リーグの上位４校に食い込めるような強化に向けた環境づくりを進めていくつもりであ

ります。
３．より幅広い取り組み
京大ラグビー部 OB 会を発展的に解消し KIU R.F.C. を発足させた狙いは、京大ラグビー部現役と OB を中核として、幅広くラグビーを愛するより多くの方々と交流することでラグビーを楽しみ、ラグビーを通して豊かな社会生活を楽しむことができるクラブにすることと考えています。
女子ラグビー部や SCIX のような高校生を対象にしたラグビー活動など先の夢は色々ありますが、まずは一歩一歩交流の輪を広げるように取り組みたいと考えています。
最後に、京都大学の伝統である創意と工夫を活かして、クラブ運営に取り組んでいくつもりです。重ねて今後ともよろしくお願いいたします。

◆只井監督より今シーズンへの抱負◆

～只井喜信(S40･神戸)～

昨年を振り返ると、戦力はそれなりに充実し、春の練習試合に花園大に勝つなど好成績を期待していたが結果は２勝７敗の８位と惨敗となった。楽勝のつもりの甲南大戦に負けて歯車が狂ったものと考えていた。
でも、或るＯＢの方から厳しい指摘をもらった。それはチームが勝ちなれてないことと、現状のレベルに甘んじる心のゆるみでありそれを払拭するには全員が心から強くなりたいと願う事だと言われた。
今シーズンを迎えるにあたり、現役選手と話し合いを通じて本当に強くなりたいのであれば、現状打破のためそれ相当の練習に取り組まねば駄目だとの意見の一致を見た。先日の日本選手権準決勝のハーフタイムの清宮監督の談話に再認識をさせられた。それは、強くなるには、ハードなことの積み重ねそして近道もないし、魔法もないということでこの意見には全く同感だと感じた。早速新肥沼主将とその話をしたところ彼も全く賛成でその方向で今年の練習をやりたいと言ってくれた。この決意が今日からシーズン終了まで続く１年になるように取り組んで行きたい。

◆肥沼新主将より今シーズンへの抱負◆

～肥沼直樹(４回生･浦和)～

こんにちは。今年キャプテンを務めます、肥沼直輝です。今年のチームスローガンは Breakthrough です。このスローガンは、近年関西大学 B リーグで結果を残せていない現状、下位に低迷している現状をなんとしても打破し、A リーグとの入替戦に出場するという思いを込めて決めました。
今年は人数の多かった 4 回生が引退し、プレーヤーの人数も少なく、また今までリーグ戦や定期戦にほとんど出場したことのないメンバーばかりの若いチームです。経験は少ないですが、メンバー全員が熱い気持ちを持っています。今年のチームなら必ず目標を達成できると思っています。今年一年、部員一同頑張りますので応援よろしくお願いします。

◆脇坂新副将より今シーズンへの抱負◆

～脇坂知樹(４回生･膳所)～

今年度副キャプテンを務めさせていただきます脇坂知樹です。今年のチーム目標はリーグ戦で 8 勝することです。この目標を達成するために最も大切なことはこの目標をどれだけ信じれるかだと思います。そのためにはまず 4 回生全員がこの目標を信じ、日々の練習に取り組まなければいけません。そうすることでチーム全員がこの目標を信じることができると思います。
昨年は惜しくも 2 勝という結果に終わってしまいましたが、今年こそはこの目標を達成し、京都大学ラグビー部に新たな歴史を残したいと思います。

◆松岡新主務より今シーズンへの抱負◆

～松岡祐斗(４回生･明和)～

今年より新しく主務を務めます、松岡です。今年は 1 プレーヤーとしてだけではなく、4 回生として、そして主務としてチームを支え、主将である肥沼の思い描くシーズンに少しでも近づくことができるように力を尽くしたいと思っています。個人的には今年はラグビー以外でも就職活動や卒業論文など、何かと忙しい 1 年になりそうですが、どれも手を抜くことなく、全力で取り組んでいきます。高校から始めたラグビー人生の集大成として、プレーヤーとしても、そして主務としても、後悔のない 1 年を送っていくつもりです。
OB の皆様方にはこれから何かとお世話になることが多いと思いますが、1 年間どうぞよろしくお願い致します。

◆時津新会計より今シーズンへの抱負◆

～時津雄太(４回生･尾道)～

本年度会計を務めます、時津と申します。まずは一プレイヤーとしての抱負を述べたいと思います。
私はこの学年になるまで、公式戦に出たことがほとんどありません。期待されて入ったにも関わらず、不甲斐ない三年間を送ってしまいました。しかし、それだからこそ今年の一年にかける思いは人一倍あるつもりです。スクラムで、フィールドプレーで肥沼組を支えられるよう頑張りたいです。
会計としては、至らないことだらけで OB のみなさまにはご迷惑をおかけするとおもいますが、今年一年よろしくお願いいたします。こちらの面でも、チームの運営が円滑に進むよう努めたいと思います。

◆奥田新歓代表より今シーズンへの抱負◆

～奥田博貴(３回生･津)～

今年度新歓代表の奥田です。今年の目標としては、去年の 4 回生の穴を埋めるためにも新入生を 16 人以上入れることとします。この目標を実現するためにも、試行錯誤しながらではありますが、今年は更に新歓に重きをおいていこうと思います。

僕個人の話ですが、昨年はケガに苦しんだシーズンでした。その際、チームの練習に無理してでも参加することがチームにとって本当に重要なことなのか、等々色々考えされられました。場合にはよりますが、ケガをした時に、じっくりと治療と身体つくりに専念出来るようなチームにしたいと僕は思います。そのためにも新歓がんばりますので、OB の皆様、恐縮ではありますが、ご支援お願い申し上げます。

◆平成２７年卒生より卒業に添えて◆

（進路先が明記されていない者は大学に残ります）

◇赤塚駿一（主務･北野）

平成 26 年度主務を務めました赤塚駿一です。4 年間、特に最後の 1 年は OB の皆様に大変お世話になりました。

私たちの学年は全部で 17 名と部員数に恵まれ、周囲の期待も大きかったのですが、大事な試合を僅差で落とし、期待された結果が残せなかったことが悔しくて仕方がありません。これからは一人の OB として先輩方とともに現役のサポートに尽力したいと思います。

進路：大学院進学（理学研究科物理学第二分野）

◇井上悠太（浦和）

私は入学時、あまり主体的には取り組んでいませんでした。しかし、先輩の姿や強豪校のプレーを間近で見るうちに、ラグビーをさらに上達させて楽しみたいという意欲が湧きました。そのような意識での練習、試合で得た新たな発見の中には人生の糧になりうるものもあるかと思います。自分が楽しむばかりで、チームに全然貢献しませんでしたが、それでも４年間在部させてくれた京大ラグビー部に感謝します。

進路：京大大学院工学研究科

◇岩崎理峻（会計・四條畷）

ラグビーを通じてこんなに自分自身と向き合うことになるなんて思っていなかったし、劇的な勝利を収めた試合は今思い返しても興奮する。こんな経験はもうできないだろうし、京大ラグビー部でしか味わえなかったと思う。この 3 年間京大ラグビー部でプレーさせてもらえて本当に幸せでした。ありがとうございました。

進路：就職（農林中央金庫）

◇飼沼　徹（一宮）

身体の小さい僕にとってラグビーはつらく厳しいものでしたが、自分なりにラグビーに向き合い、試行錯誤し、肉体と精神を鍛えた 4 年間は、かけがえのない経験となりました。

このような経験を得られたのも、苦楽を共にした同期、先輩、後輩また監督、コーチ、OB、マネージャー全ての人のおかげだと思います。これからは 1 人の京大ラグビー部 OB として現役をサポートしていきたいと思います。ありがとうございました。

進路：大学院進学

◇片山裕太（洛南）

振り返ってみると、あっという間でした。最後の学年は自分たちがチームの顔であり、全ての責任がかかっているので何をするにも重圧がありました。その重圧は先輩たちが築き上げた京大ラグビー部というものの大きさと、人のためではなく自分たちの為にラグビー部をやっているという思いのせめぎあいから生まれたものだと思います。そして現役時代の OB さんへの感謝を現役の皆に返していくことで部にこれからも貢献していきたいです。

◇木村博紀（開明）

京大ラグビー部での四年間を終え、これから自分はＯＢになりますが、本当に 4 年間はあっという間だったと思います。4 年間様々なことがありましたが、周囲の人々に支えられて四年間を過ごすことができました。これからは現役の時にＯＢの方々からお世話になったように、大好きな京大ラグビー部にＯＢとして現役をサポートしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

進路：就職（旭化成）

◇坂倉央輝（旭丘）

僕がラグビー部に入ったのは諸事情もあり、一回生の終わり頃でしたが、この部活はそんな僕を温かく迎え入れてくれました。

京都大学のラグビー部を選んだ事には全く後悔をしていません。最高の仲間に恵まれ、本当に充実した３年間でした。それもひとえに OB の皆様や監督団、そして家族の支えあってのことだと感謝しております。これからは自分も OB になるので、皆様にご助力頂いた分を現役に返していけたらと思っております。

◇田中　岳（副将・茨木）

この 4 年間、特に最後の 1 年間で強く感じた事は、「京大のラグビー」は選手だけでなく、マネージャーや監督団そして多くの OB の方々の協力で成り立っているという事です。学生が全力でプレーできるのは、そのような環境を OB の皆様が作って下さっているからであると最終学年に副将を務める中でよく理解することができました。これからは一人の OB として、ラ

グビー部を支えたいと思います。4 年間お世話になりました。

進路：就職（伊藤忠商事）

◇中島徹哉（前橋）

4 年間ありがとうございました。私は 3 回生の時に新勧代表として活動し OB さんと接する機会が増えました。その度にラグビー部のことを気にかけてくれ、積極的に協力してくれる OB さんの姿を見て、とても恵まれた環境でラグビーをできているのだと実感しました。今年は就職先を決めるのが第一ですが、もう 1 年京都にいるので OB の 1 人として京大ラグビー部のために尽力していきたいと思います。

◇中山希昂（大阪星光）

こんにちは。LO をやっていた中山と申します。僕はこの 4 年間でラグビーを通じて様々な人と出会うことができました。中には僕を成長へと導いてくれた、あるいはその成長の大きなきっかけになった人もいました。また、自分と向き合うと同時にチームとも向き合わなければいけないことの難しさを体感しました。この 4 年間の経験を基盤に将来は「人を育てる」ことができる人間でありたいと思います。

◇西澤　亮（生野）

OB の皆様には 4 年間色々な面でお世話になりました。金銭面での部への援助もさることながら、特に練習・試合でグラウンドにいらしてくださった若手の OB の方々には感謝してやみません。私も来年度からはできる限りグラウンドに足を運び後輩の成長を見守りたいと考えております。

進路に関してですが、私は４月からは京都大学大学院に入学します。これまでラグビーに注いでいた活力を研究に向け精一杯の結果を残したいと思っています。

◇丹羽滉生（副将・桐蔭中等）

引退した今、京大ラグビー部の事を回顧すると、まず東大戦での勝利が思い浮かびます。これについては、詳しくはＨＰを参照して頂きたいです。そして４年間様々なものとの「闘い」を通して、皆で新たな三島組という京大ラグビー部としての集合体を形成できた事で、多大なる矜持を抱く事ができました。当面は大学院進学が決まっていますが、就職し社会に出たら、この４年間で得た「強さ」を胸に抱き、「闘い」を挑みたいと思います。

◇濱岡弘晃（茨木）

僕が 1 回の時の最終戦後に 4 回の先輩が「やっと終わった」と言いあっていたのを聞いて当時はその気持ちが全く理解できなかったのですが、今ではその意味がわかる気がします。この 4 年間、自分の思うようにいかない事も多くありましたが、やりきったという安堵感が今は大きいです。

僕は、来年もう一年卒業のため勉強しなければならず京都に残るので、現役の手助けが少しでもできればと思っています。4 年間ありがとうございました。

◇三島康二（主将・茨木）

昨年度主将を務めさせていただきました三島康二です。昨年も現役に厚いサポートしてくださり本当にありがとうございました。僕自身は力不足でしたが、チームは良い締めくくりとなり、良いスタートが切れるのではと期待しています。4 年間を振り返ると一年ごとにチーム内に全く違う立場で関わったことは貴重な体験だったと思います。今年からはまた今までとは別の立場からこのチームをサポートできたらと思います。

◇宮内大輔（大手前）

OB の皆様、4 年間サポートしてくださりありがとうございました。グランドで声をかけていただくこともあり、非常に励みになりました。

昨年は春シーズンはチームの調子が良かったのですが、そこで 4 回生が「秋勝つにはこんなんじゃ全然駄目だ」と思わなければいけませんでしたし、それを発信しなければいけませんでした。

それでも、京大ラグビー部で過ごしたことは私にとっての誇りです。

ありがとうございました。

進路：就職（住友商事）

◇山敷啓吾（洛星）

HO で備品係の山敷です。今年は学部に残って就職活動に勤しみます。4 年間を振り返って、はっきりと今このラグビー部に入って良かったなと実感できることは、「人とのつながり」です。この部に誘って下さった OB の皆様、苦楽を共にした同期、後輩、本当に素晴らしい方々に恵まれ、幸せだなと感じています。現役活動はこれで終わりましたが、今後も一 OB としてよろしくお願いします。

◇池田　愛（芦屋国際・マネージャー）

この４年間は、私にとって何もかもが挑戦でした。まずはラグビーを知るところから始まり、合宿でテーピングを学び、そしてスコアやデジタルニュースの配信と、年々一歩ずつできることが増えていくことに喜びを感じました。また、多くの OB の皆様から励ましの言葉を頂き、それが私のマネージャーとしてのやりがいにも繋がりました。今まで支えて下さった皆様に心より感謝致します。ありがとうございました。

進路：就職（KCJ GROUP 株式会社）

◆京都大学ラグビー部 Web サイトのご案内◆

ホームページアドレス　http://www.kiurfc.com/

付　記

－前号『東大戦の想い出』に掲載できなかった記録－

過去 93 回の全試合記録

	京大	東大	得点差	僅差☆（一桁以内）
1922(T11)	●	0	－13	－13	
1923(T11)	△	0	－ 0	± 0	☆
1924(T13)	○	8	－ 3	＋ 5	☆
1925(T13)	○	12	－ 8	＋ 4	☆
1926(T14)	○	13	－ 0	＋13	
1927(S 2)	○	22	－ 0	＋22	
1928(S 3)	○	8	－ 3	＋ 5	☆
1929(S 4)	○	9	－ 3	＋ 6	☆
1930(S 5)	○	12	－ 8	＋ 4	☆
1931(S 6)	○	12	－ 6	＋ 6	☆
1932(S 7)	●	6	－24	－18	
1933(S 8)	○	26	－ 5	＋21	
1934(S 9)	○	41	－11	＋30	
1935(S10)	○	69	－ 0	＋69	
1936(S11)	○	17	－ 8	＋ 9	☆
1937(S12)	○	18	－ 6	＋ 2	☆
1938(S13)	●	6	－21	－15	
1939(S14)	●	12	－51	－39	
1940(S15)	○	20	－12	＋ 8	☆
1941(S16)	○	14	－ 3	＋11	
1942(S17)	○	24	－ 9	＋15	
1943(S18)	●	0	－30	－30	
1944(S19)	●	11	－12	－ 1	☆
1945(S20)	●	5	－11	－ 6	☆
1946(S21)	○	16	－ 8	＋ 8	☆
1947(S22)	●	9	－12	－ 3	☆
1948(S23)	○	21	－ 8	＋13	
1949(S24)	○	44	－ 3	＋41	
1950(S25)	○	20	－ 3	＋17	
1951(S26)	○	35	－ 8	＋27	
1952(S27)	○	34	－ 6	＋28	
1953(S28)	●	6	－16	－10	
1954(S29)	○	21	－ 6	＋15	
1955(S30)	○	12	－ 0	＋12	
1956(S31)	○	27	－ 0	＋27	
1957(S32)	●	11	－14	－ 3	☆
1958(S33)	●	5	－18	－13	
1959(S34)	△	11	－11	± 0	☆
1960(S35)	●	5	－11	－ 6	☆
1961(S36)	●	8	－20	－12	
1962(S37)	●	13	－30	－17	
1963(S38)	△	14	－14	± 0	☆
1964(S39)	○	31	－ 8	＋23	
1965(S40)	○	14	－11	＋ 3	☆
1966(S41)	○	24	－10	＋14	
1967(S42)	○	32	－12	＋20	
1968(S43)	●	0	－20	－20	
1969(S44)	●	5	－23	－18	
1970(S45)	○	24	－ 8	＋16	
1971(S46)	○	15	－ 3	＋12	
1972(S47)	△	12	－12	± 0	☆
1973(S48)	○	20	－18	＋ 2	☆
1974(S49)	○	37	－ 0	＋37	
1975(S50)	○	39	－ 8	＋31	
1976(S51)	△	12	－12	± 0	☆
1977(S52)	○	42	－23	＋19	
1978(S53)	●	12	－15	－ 3	☆
1979(S54)	○	22	－12	＋10	
1980(S55)	○	24	－19	＋ 5	☆
1981(S56)	○	38	－ 7	＋31	
1982(S57)	○	11	－ 0	＋11	
1983(S58)	●	6	－27	－21	
1984(S59)	○	19	－ 6	＋13	
1985(S60)	○	11	－ 0	＋11	
1986(S61)	●	11	－13	－12	
1987(S62)	●	0	－32	－32	
1988(S63)	●	0	－54	－54	
1989(H 1)	●	10	－14	－ 4	☆
1990(H 2)	●	7	－21	－14	
1991(H 3)	●	24	－27	－ 3	☆
1992(H 4)	●	20	－22	－ 2	☆
1993(H 5)	●	17	－55	－38	
1994(H 6)	●	8	－40	－32	
1995(H 7)	●	11	－15	－ 4	☆
1996(H 8)	●	12	－41	－29	
1997(H 9)	●	29	－34	－ 5	☆
1998(H10)	○	14	－12	＋ 2	☆
1999(H11)	●	24	－39	－15	
2000(H12)	○	28	－23	＋ 5	☆
2001(H13)	○	28	－19	＋ 9	☆
2002(H14)	○	78	－14	＋64	
2003(H15)	○	80	－ 0	＋80	
2004(H16)	●	26	－43	－17	
2005(H17)	○	34	－19	＋15	
2006(H18)	●	27	－31	－ 4	☆
2007(H19)	○	73	－15	＋58	
2008(H20)	○	38	－ 5	＋33	
2009(H21)	●	19	－48	－29	
2010(H22)	○	36	－ 5	＋31	
2011(H23)	●	26	－31	－ 5	☆
2012(H24)	●	7	－26	－19	
2013(H25)	●	22	－24	－ 2	☆
2014(H26)	○	31	－20	＋11	

合計　51 勝 37 敗 5 分（1867－1441＝＋426）☆36 試合

甲南大戦

大阪経大戦

帝塚山大戦

九大戦A

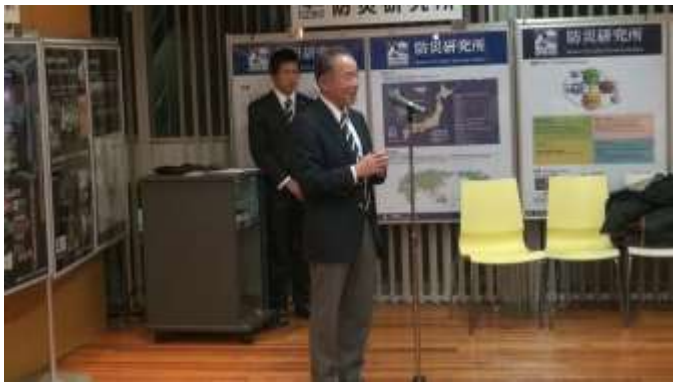
九大戦B

東大OB戦

東大戦A

東大戦B　京大のトライ

試合終了後



東大戦AMF

クラブ便り

春シーズン総括号　2015.7.27

KIURFC　平成 27 年度 第２号　京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆監督による春シーズン総括◆

只井喜信監督(S40 神戸)

今年の３月に 16 人が卒業し新体制では 20 人強の部員でのスタート。すぐに怪我人が出て試合が出来るのも危ういと言う状況でした。結果的には新入生が 20 人入り廃部は免れたと言うのが現状です。

京大は私学に比し、フィットネスに劣り、スピードもスタミナも負けています。これに打ち勝つため、新チームでは練習の強度を上げ、実戦経験の少ない選手に試合経験も増やすため週に２回のＡ戦を計画しました。

更に大きいのは、ほとんど毎週Ｂ戦が出来たことがあります。唯、残念なのは大半の選手がこれに打ち勝つことが出来ず、特に５月以降は連戦の疲労に勝てず試合でばててしまい敗戦が多い春シーズンとなったことです。

前田主将(昭和 47 年卒)の時代と同じ取り組みをしたが、秋に彼らのように成果を上げてくれるか夏の合宿を含めた今後の練習次第と思っています。

怪我人が多く出ていることもあり。新入生が多くＡ戦に出場したことは底辺の底上げと、上級生の危機感を共有することにつながると期待しています。

最低でもこれからの練習で 80 分走れる選手､相手に怖がらずにタックルに飛び込めてチームとしての防御網を作り上げたいとの考えで７月に主力選手と意見交換し８月にその体制を確立しようと考えます。

最後に付け加えますが、ラグビーは 15 人から 23 人でする競技に変わったと言う点です。春の試合で同志社、龍谷大戦での結果についてですが、前半にＡ，またはそれなりに強い相手とそこそこ勝負をしながら、後半に相手がぐっと落としたメンバーに対してぼろ負けしていますが、前半に好タックルで止めていても後半の弱い相手でも、元気のある相手になす術なく手もなくやられるのは層の薄さとしか言いようがない思いを強くしています｡今後もラグビーでは 23 人が同じレベルになることが要求され、そのためには各学年最低 15 人合計 60 人以上の部員が必要との思いを強くしています。この面でもリクルート部会任せではなく全ＯＢの方のご協力もお願いしたいと思います。

秋のシーズンの応援もよろしくお願いします。

なお、今年の５月から三菱自工京都の全盛時のＳＯで活躍した橋本光夫氏にバックスコーチをお願いしています。具体的に身体を動かして指導してくれているのでわかりやすいと好評のようです。

◆主将による春シーズン総括◆

肥沼直輝主将(浦和)

３月から始まりました約４ヶ月間の春シーズンが６月 27 日に終了しましたのでここで春シーズンの報告をさせていただきたいと思います。

今年のチームスローガンは Breakthrough です。このスローガンには京大ラグビー部が関西Ｂリーグの下位に低迷している現状を打破しなんとしてでも入替戦に出場するという思いをこめました。この目標達成のためにチーム全体として、アタックではテンポの速い球出しとゲインラインを越えにいく攻撃、ディフェンスではしっかりと前に出て低く強いタックルをすること、また個々人ではＢリーグ上位のチームに負けない体作りを春シーズン通してやってきました。まず今年重点を置いて取り組んできた体作りに関して述べさせていただきます。ここ数年のリーグ戦での京大は大きな体の私立大学の FW の圧力に負け思うようなプレーができず敗戦することが続いています。昨年Ａリーグに上がった関西大学の FW 平均体重は 95 キロ以上あり、また今年我々がターゲットにしている龍谷大学、大阪産業大学の FW も平均体重は 90 キロを超えてきます。これに対し昨年の京大Ａチームの FW の平均体重は 80 キロあまりでした｡この差を少しでも埋めることが先決であると考え、これは１月、２月のオフ中からですが週４回のウエイトトレーニングの徹底と朝昼夜の食事の他におにぎりなどの間食を積極的にとらせてきました。その結果今シーズン中でほぼすべての部員が３～４キロ程度の増量と２回生以上の FW の平均体重が 85 キロを超えました｡この取り組みは今後も続けていこうと思います。アタックとディフェンスに関しては後に述べさせていただきます。

今年のチームは昨年に比べ４回生の数が少なく、また BK は昨年のＡチームのレギュラー陣が全員抜けまったく新しいメンバーでのスタートになりました。今までＡチームの試合にほとんどでたことのないメンバーも多く、試合の経験を多く積んでもらうために今年の春シーズンは例年の２倍程度の数の試合を組みました。また BK は全く新しいメンバーになったということもあり、ここ数年の京大に無かったさまざまなプレーに挑戦し、特にセットプレーからのアタックにバリエーションを増やしてきました。FW に関しては昨年同様にスクラム、ラインアウトといったセットプレーの強化に加え、毎年練習が遅れがちなモールも春のうちから組み込むことによって、モール内でのまとまりや連携を強化してきました。その結果として FW はセットプレーのマイボールキープ率が上昇し、モールか

らのトライは格段に増えました。BK もアタックに変化が加わり、ラインブレイクの回数が増えました。しかし FW、BK ともにアタックでは勝負所でのミスが多く、ディフェンスでは規律の徹底があまく、相手に自由にアタックをされてしまいました。この点に関しては８月中に修正できるよう練習を重ねていこうと思います。

次に春シーズンの各月の様子について簡単に報告させていただきます。３月は体作りと基礎スキルの練習に力をいれました。また月の終盤には宇治に泊り込みで４日間の合宿を行いました。４月は練習と平行して新歓にも時間を割きました。その結果 20 人のプレーヤーと１人のマネージャーが入部してくれました。５月は定期戦に加え最近は出場していなかった近畿国立大学体育大会にも参加しＡチームの試合数を増やしました。またそのほかにもＢチームの試合も多く組み、どの選手も１週間に１試合以上試合を経験できるようにしました。６月は去年よりも２週間ほどシーズンを延ばし防衛大学戦後にも同志社、大体大といった強豪校と試合を組みました。結果はどちらも惨敗でしたがこの２試合でようやくプレーヤーそれぞれが相手に対して体を強く当てられるようになってきました。

この春シーズンは敗戦が続き、上手くいかない部分も多くありました。しかしこれは新しいことにチャレンジした結果であり悲観はしていません。秋に結果を残すために地道な努力をこれからも続けていこうと思います。長くなりましたがこれで春シーズン報告を終わりにさせていただきます。

～慶應義塾大学との定期戦から～

◆春シーズン試合結果◆

①３月 29 日（日）練習試合（阪大Ｇにて）
　○京　大３１－２４大阪大学　　MOM 中村
②４月 19 日（日）新歓試合（宇治Ｇにて）
　●京大Ｂ　０　－２６京都工繊大　　MOM 森本
③４月 26 日（日）練習試合（宇治Ｇにて）
　●京　大　５　－５９花園大学　　MOM 時津
④５月３日（日）　近国大会１回戦（宝ヶ池にて）
　○京　大３５－　５　滋賀大学　　MOM 脇坂
⑤５月５日（火）　定期戦（宇治Ｇにて）
　●京　大　０　－８３慶應義塾大学　　MOM 竹田
⑥５月 10 日（日）練習試合（宇治Ｇにて）
　●京　大２６－３５東宇治ＲＣ　　MOM 林田
⑦５月 10 日（日）練習試合（宇治Ｇにて）
　○京大Ｂ２９－　７　阪大外国語学部　MOM 大藤
⑧５月 16 日（土）定期戦（宇治Ｇにて）
　●京　大１２－９７立命館大学　　MOM 竹田
⑨５月 17 日（日）近国大会準決勝（京工繊Ｇにて）
　●京　大１０－２８神戸大学　　MOM 肥沼
⑩５月 23 日（土）練習試合（宇治Ｇにて）
　●京　大　７　－６９龍谷大学　　MOM 志村
⑪５月 24 日（日）練習試合（宇治Ｇにて）
　●京大Ａ１２－３５大阪学院大学Ａ　MOM 不選
⑫５月 24 日（日）練習試合（宇治Ｇにて）
　●京大Ｂ　５　－７４大阪学院大学Ｂ　MOM 南口
⑬５月 30 日（土）練習試合（宇治Ｇにて）
　●京大Ｂ　７　－４５大阪府立大学Ｂ　MOM 大藤
⑭５月 31 日（日）近国大会３位決定戦（京工繊Ｇにて）
　○京　大３８－　０　和歌山大学　　MOM 松岡
⑮６月６日（土）　練習試合（宇治Ｇにて）
　●京大Ｂ１２－１７滋賀大学　　MOM 森本
⑯６月７日（日）　定期戦（宇治Ｇにて）
　●京　大　０　－９７関西学院大学　　MOM 関根
⑰６月 14 日（日）定期戦（防衛大学校Ｇにて）
　●京大Ａ１０－６４防衛大学校Ａ　　MOM 不選
⑱６月 14 日（日）定期戦（防衛大学校Ｇにて）
　●京大Ｂ　０　－３１防衛大学校Ｂ　　MOM 服部
⑲６月 20 日（土）練習試合（宇治Ｇにて）
　●京大Ｂ２２－４４神戸大学Ｂ　　MOM 永島
⑳６月 21 日（日）練習試合（同志社田辺Ｇにて）
　●京　大　５　－115 同志社大学　　MOM 不選
㉑６月 27 日（土）練習試合（大体大熊取Ｇにて）
　●京　大　５　－７９大阪体育大学　　MOM 山下

注）MOM･･･マン・オブ・ザ・マッチ
　強化委員会が選出する、試合で最も活躍した選手。

◆ 新 人 紹 介 ◆　ひと言コメント

・有澤　善大　　仙台二　CTB　工・建築
有澤善大です。仙台二高出身です。大学ではセンターをやっています。タックルを受けても倒れないで前進できる強いプレーヤーを目指して頑張ります。

・石井　大智　　須磨学園　ＦＬ　工・電気電子
工学部電気電子工学科一回生の石井大智です。ラグビー初心者なので分からないことはどんどん先輩や同回生に聞いてがむしゃらに練習していきたいと思います。

・板垣　佳亮　　宮津　WTB　文学部
京都府宮津高校出身の板垣佳亮です。ラグビーは未経験ですが、野球で鍛えてきた肉体を生かし、力強いプレーでチームの勝利に貢献できるようになりたいです。

・岡村　洸篤　　西大和学園　WTB　法学部
法学部１回の岡村洸篤です。初心者ですが、今年の目標はＡチームに入ることです。厳しいですが、目標は高い方が良いと思っています！応援よろしくお願いします。

・片岡　千佳　　MG
京都府立大学から来ました片岡千佳です。好きなポジションはプロップと NO.8 です。よく気の利くマネージャーになりたいです！

・樹下　英典　　清風南海　WTB　法学部
初めまして。大阪の清風南海出身の樹下英典です。僕は 15 人制の経験が浅く、体も小さい為、当面はラグビーの勉強と増量に励み、最終的にチームに貢献できるよう努力します。

・窪田　悠斗　　吉田　ＬＯ･ＦＬ　理学部
富士山の麓の山梨県立吉田高校から来ました、理学部の窪田悠斗です。体を大きくして、低く強いタックルで敵を止めたいと思います。よろしくお願いします。

・古座岩（こざいわ） 祐樹　　大阪桐蔭　ＬＯ･ＦＬ　法学部
はじめまして古座岩祐樹です。ポジションは FL です。膝の怪我で練習には参加できていませんが、この期間に万全なからだ作りとラグビー理解度の向上を達成しようと思います。

・古元（こもと）　泰地　　明和　ＳＯ・ＦＢ　工・電気電子
明和高校出身、工学部電気電子工学科の古元泰地です。ポジションは主にバックスリーですが、ハーフ団も練習中です。早くレギュラーを脅かせる存在になれるよう頑張ります。

・齋藤　瑞輝　　仙台一　ＬＯ･ＰＲ　農学部
１回生の齋藤瑞輝と申します。高校からラグビーを始め、LO と PR をしています。体力、スキル共に大学レベルで通用するようになることを目標に精進していきます。

・関根　諒　　日比谷　CTB･WTB　法学部
法学部一回の関根諒です。東京の日比谷高校でセンターをしていました。今年は１年の人数も多いので楽しみながらプレーしたいです。

・竹田　将克　　膳所　ＳＨ･ＳＯ　医・人間健康
滋賀県膳所高校出身の竹田将克です。入部して３ヶ月経ちましたがまだまだ慣れないことがたくさんあり毎日の練習をこなすことで大変ですが高い意識を持って四年間精一杯頑張っていきたいと思っています。

・田中　祐輝　　筑紫丘　ＦＬ　工・物理工
１回生の田中です。ポジションはフランカーです。福岡の筑紫丘高校出身です。体重を増やしレギュラーで活躍できるように努力していきたいです

・永島健太郎　熊本　ＦＬ　工・物理工
熊本高校から来ました１回生の永島健太郎です。ポジションは FL をやらせてもらっています。早く先輩方のような力強いタックルが出来るプレーヤーになりたいと思います。

・沼田（ぬまだ）　章良　　大手前　CTB　工・工業化学
沼田章良です。高校でラグビーをはじめて BK をしていました。体は小さいのですが、しっかり練習に取り組んで BK ならどのポジションでもこなせるプレーヤーを目指します。

・服部　翔悟　　大阪桐蔭 CTB･WTB　工・工業化学
工学部工業化学科の服部翔悟です。僕は昔からパススキルが無さすぎるので、パスを重点的に練習しようと思います！そして、トライを取りチームを引っ張っていけたらと思います

・南口　桂吾　　洛星　ＳＨ･NO8　経済学部
洛星高校出身、一回生の南口桂吾です。高校時代はハーフをやっていましたが、今はフランカー、エイトをやらしてもらっています。しっかりと判断するプレーヤーになります！

・森野　達平　　兵庫　ＦＬ･ＬＯ　医・人間健康
兵庫高校出身の森野達平です。高校では主にバックローをしていました。体が小さく、足も速くないですが、大きな声と無尽蔵のスタミナを武器に頑張ろうと思います。

・森本　勇輝　　神戸　ＨＯ　医・人間健康
神戸高校出身の森本勇輝です。ラグビーは高校から始めて、ずっとフッカーをやっています。今は身体も小さく技術もまだまだ未熟ですが戦力になれるよう頑張ります！

・森谷（もりや）　拓冬　　仙台三　ＰＲ･ＨＯ　理学部
こんにちは、一回生の森谷拓冬です。仙台三高出身です。ポジションは、プロップとフッカーです。自分の役割を果たせるように頑張りたいと思います。

・吉田　岳史　　渋谷教育学園幕張　法学部
法学部１回生、千葉出身の吉田岳史です。高校時代は山岳競技をしていました。ラグビー未経験者ですが、来年の秋までにはＡチームで試合に出場できるよう頑張ります。

凡例：氏名　出身高校　ポジション　学部・学科

◆ＯＢからの寄稿◆

『ヒーローズ全国大会に参戦して』

日高 保(Ｈ６湘南)

平成 27 年２月 28 日（鶴見緑地球技場）～平成 27 年３月１日（花園ラグビー場）に開催された第７回ヒーローズカップ決勝大会に、鎌倉ラグビースクールのコーチの一人として出場いたしました。学生時代を過ごした地にこういう形で凱旋させてくれた子どもたちは、私にとって大切なタカラモノの一つです。この大会への出場を通じて、子どもたちから本当にたくさんの感動をいただきました。

またこの大会で、他チームのコーチをしている京大ラグビー部 OB の方々と再会したり、あるいはたくさんの方々が応援に駆けつけてくださったり、ラグビーを通じて得たご縁のありがたさを感じました。とくに私が現役最終年にお世話になり、また５回生時に学生コーチとして招聘してくれた市口元監督に、鎌倉ラグビースクールの試合を見ていただいたことは格別の思いがありました。監督時代にめざしていたであろうスピード感溢れる展開ラグビーを、二十年越しに我がチームの子どもたちが実践してくれて、その結果プレート部門優勝（全国五位の位置づけ）という成果を残すことができました。

ところで今回小学生の全国レベルの試合を観戦して、ほとんどのスクールが週１、２度の練習の中、子どもたちの技術の高さには本当に驚かされました。この子たちの多くは恐らくラグビー有名校に進学するのだと思いますが、この年齢でこれだけ技術が高いということは飲み込みが早い証、同時に学力向上の動機も与えて、将来出身高校や京大のラグビー部に人材を供給できれば、という妄想を描いたりもしています。本当に実現できたらうれしいなあ。

『ヒーローズカップと再会』

鳴瀧 敬嗣(Ｈ５大手前)

平成２７年３月１日、約２０年振りに花園ラグビー場のグラウンドに立ちました。７０周年記念の東大戦以来のことです。息子が所属する相模原ラグビースクールが小学生の全国大会であるヒーローズカップに出場することとなり、コーチとして２度目の花園のグラウンドに立つ機会に恵まれました。

試合の結果ですが、２日間で４試合組まれ、初戦から小学生とは思えないほどの気迫と集中力で試合に臨みましたが、全国大会の壁を破ることはできず３連敗。大雨の中での最終試合でもリードを許していましたが、終盤で連続４トライの逆転勝ちで念願の勝利を収めることができました。この１勝は彼らにとって大きな自信と勲章になると思います。彼らの中から、再び花園のグラウンドに立つ者が出ることを予感させる試合でした。

２日間の大会開催中、同期の新里君や１期後輩の北君が応援に駆けつけてくれました。同じく関東大会を勝ち抜いた鎌倉ＲＳでコーチを務める１期後輩の雲田君と日高君も出場しています。約２０年前の花園で一緒に戦ったメンバーと花園で再会したのです。そして、２期上の藤井先輩も兵庫県ＲＳでコーチをされており出場されていました。藤井先輩には学生時代に多大なるご迷惑をお掛けし、ずっとお会いしたいと思っていたところ、元気な姿をお見せすることができました。遠くに離れていた仲間にラグビーを通じて偶然再会しました。当時の熱い気持ちを思い出す、楽しい２日間でした。

最後に笑い話ですが、息子が知らない人に「君、鳴瀧君？がんばってね。」と声を掛けられたそうです。何百人といる子供達の中から、藤井先輩が私の息子だと思い、声を掛けられたそうです。そんなに似てますか。

◆ 合 宿 予 定 ◆　８月（菅平高原にて）

宿泊ホテル：菅平佐久山荘・スイスホテル

16 日(日)　午前　出発（佐久山荘へ）
17 日(月)　午前　vs 北海道大学（A 戦、B 戦）
18 日(火)　午前　vs 東北大学（A 戦）
19 日(水)　午後　vs 一橋大学（A 戦、B 戦）
20 日(木)　午前　vs 未定（B 戦）
　　午後　vs 成城大学（定期戦）
21 日(金)　午前　vs 上智大学 A、B
　　(A30 分 2 本、B30 分 1 本)
22 日(土)　スイスホテルへ宿舎移動（オフ）
23 日(日)　午前　OB 戦
24 日(月)　午前　vs 未定（B 戦）
　　午後　vs 東京工業大学（A 戦）
25 日(火)　下山

◆ 秋・リーグ戦と定期戦の日程 ◆

	日　付	相　手	会 場
①	９月２０日（日）	vs 大阪産業大学	（大体大Ｇ）
②	９月２７日（日）	vs 龍 谷 大 学	（宝ヶ池Ｇ）
③	１０月　４日（日）	vs 大阪体育大学	（大体大Ｇ）
④	１０月１８日（日）	vs 甲 南 大 学	（甲南大Ｇ）
⑤	１０月２５日（日）	vs 花 園 大 学	（宇 治 Ｇ）
⑥	１１月　１日（日）	vs 大 阪 大 学	（大阪大Ｇ）
⑦	１１月１５日（日）	vs 大阪経済大学	（甲南大Ｇ）
⑧	１１月２２日（日）	vs 神 戸 大 学	（宇 治 Ｇ）
⑨	１１月２９日（日）	vs 大阪教育大学	（宝ヶ池Ｇ）

天候や諸状況の変化に伴い、日程や会場が変更されることもございますので、ご来場の際は、直前にマネージャーから配信されるＭＬをご確認ください。

定期戦については、以下の予定で調整中です。あくまで予定であり、次号で再掲載いたします。ＯＢ諸兄の多数のご観戦、よろしくお願い申し上げます。

①　９月　６日（日）vs 同志社大学（同大田辺Ｇ）
②　１２月２０日（日）vs 東 京 大 学（東 大 Ｇ）
③　１２月２３日（水）vs 九 州 大 学（宇 治 Ｇ）

また、京都大学ラグビー部 Web サイトも是非ご参照ください。アドレスは http://www.kiurfc.com/です。

◆ フォト・ライブラリー ◆

５月３日（日）　近国大会１回戦（宝ヶ池にて）
〇京　大３５－　５　滋賀大学

～近国緒戦・滋賀大学戦から～

５月５日（火）　定期戦（宇治Gにて）
●京　大　０　－８３慶應義塾大学

～慶應義塾大学との定期戦から～

５月３０日（土）練習試合（宇治Ｇにて）
●京大Ｂ　７　－４５大阪府立大学Ｂ

～練習試合・大阪府立大学戦から～

５月３１日（日）近国大会３位決定戦（京工繊Ｇにて）
○京　大３８－　０　和歌山大学

～近国３位決定戦・和歌山大学戦から～

撮影：いずれも岡本大和（Ｈ２３岡山城東）

クラブ便り

秋シーズン開幕号　2015.9.19

KIURFC　平成 27 年度 第３号　京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆今シーズンに向けて◆

只井喜信監督(S40 神戸)

７月の中旬ころに現役の幹部を集めて今年の試合の進め方、ＤＦの約束などの再確認をしました。
現役と話をしたのはもっと細かいのですがポイントを書きます。

①セットプレー（スクラムとラインアウト）からの安定した球出しとブレークダウン後の早い球出し（少なくとも２秒以内に球出し）

②前の出るタックルが全ての基本
→常に前に出て相手にプレッシャーをかけ、ミスを誘発させる。特に味方キックに対してＷＴＢが追いかける（高校時代に相手の手前で止まって見るように指導されている）。

③セットプレー以外のＤＦではシステムの確認と徹底
→味方同士の連携を確実に（一人目の早い意思表示）

④速いテンポの試合運びで、チャンスを生かす。

⑤地域ごとの攻撃パターンの徹底（敵陣で試合するためのキックの有効活用）と敵陣での攻撃
→ＢＫは積極的なサインプレー（ＦＢ、ＷＴＢの投入等）、ＦＷはモールやサイドのピックからの攻撃

が確認をした主な内容です。合宿でこれらをテストしたかったのですが、不完全燃焼になったので、京都でやるしかないと思っています。肥沼主将がチームを引っ張っていくことも期待しています。

ＯＢの皆様のグランドでの声援を期待しています。

◆主将による秋シーズンへの抱負◆

肥沼直輝主将(浦和)

今年のチームが動き出してから早くも半年以上が経ち、リーグ戦も初戦まで残りわずかとなってきましたので、ここで秋シーズンへの抱負を述べさせていただきたいと思います。
昨年のレギュラーメンバーが半分以上入れ替わった今年のチームは、試合経験が少ないメンバーが多いことから春シーズン中から多くの試合を組み、例年以上に部員全員が試合に出場できるようにしてきました。

この結果上回生の成長はもちろんですが、下級生に大きな成長が見られ、A チームの試合に出場しても活躍できるような選手がでてきたのはチームとして大きな収穫となりました。また今年は、大きく A チームのメンバーが変わることをチャンスととらえ､アタック、ディフェンスともにさまざまな新しいことにチャレンジしてきました。フォワードに関してはモールの組み方を変えたり､ラインアウトのサイン数を増やしたり、近場のアタックにバリエーションを増やしたりしてきました。その結果、セットプレーが安定しフォワードのトライが昨年に比べ多くなりました。またバックスではセットプレーからのアタックや、キックにバリエーションを増やしてきました。多くのことにチャレンジしてきましたが、夏合宿を経てチームとしての規則や試合のはこび方、アタックやディフェンスの方向性もまとまりリーグ戦を迎える準備はできつつあります。今年のリーグ戦の目標は入替戦出場です。ここ数年京大が B リーグで低迷している状況を打破するため、大阪産業大学、龍谷大学に勝利するため厳しい練習をしてきました。京大としての誇りと、支えてくれる全ての人への感謝を胸に部員全員で闘ってきます。ご声援のほど宜しくお願いします。

◆合宿以降の試合結果◆

～８月（菅平高原合宿にて）～

17 日(月)	京都大学	22	－ 24	北海道大学A
	京都大学	5	－ 26	北海道大学B
18 日(火)	京都大学	22	－ 39	東北大学
19 日(水)	京都大学	0	－ 55	一橋大学A
	京都大学	10	－ 26	一橋大学B
20 日(木)	京都大学	0	－ 87	成城大学（定期戦）
21 日(金)	京都大学	12	－ 15	上智大学A
	京都大学	5	－ 32	上智大学B
	京都大学	24	－ 24	名古屋大学
23 日(日)	京都大学	12	－ 19	京都大学 OB
24 日(月)	京都大学	33	－ 5	愛知淑徳大学
	京都大学	0	－ 94	東京工業大学

遠く菅平まで現役のために応援に駆けつけて頂きました多くのＯＢの皆様､誠にありがとうございました。

～９月（同志社大学田辺グラウンドにて）～

6 日(日)	京都大学	0	－125	同志社大学（定期戦）

夏合宿の試合（雨中の北海道大学戦から）

８月１７日撮影　上・中（モールトライ）；A戦　下；B戦

◆ 秋・リーグ戦と定期戦の日程 ◆

	日　付	相　手	会 場
①	９月２０日（日）	vs 大阪産業大学	（大体大G）
②	９月２７日（日）	vs 龍 谷 大 学	（宝ヶ池G）
③	１０月　４日（日）	vs 大阪体育大学	（大体大G）
④	１０月１８日（日）	vs 甲 南 大 学	（甲南大G）
⑤	１０月２５日（日）	vs 花 園 大 学	（宇 治 G）
⑥	１１月　１日（日）	vs 大 阪 大 学	（大阪大G）
⑦	１１月１５日（日）	vs 大阪経済大学	（甲南大G）
⑧	１１月２２日（日）	vs 神 戸 大 学	（宇 治 G）
⑨	１１月２９日（日）	vs 大阪教育大学	（宝ヶ池G）

日程や会場が変更されることもございますので、ご来場の際は、直前にマネージャーから配信されるＭＬをご確認ください。また、定期戦については、以下の予定で調整中です。Ｗｅｂ（http://www.kiurfc.com/ ）や、ＭＬ等でご確認お願い致します。ＯＢの皆様の多数のご来場、ご声援、宜しくお願い申し上げます。

①	９月　６日（日）	vs 同志社大学	（同大田辺G）
②	１２月　未定	vs 九 州 大 学	（宇 治 G）
③	１２月２０日（日）	vs 東 京 大 学	（東 大 G）

◆宇治グラウンドにて対同志社 OB 戦を開催◆

９月 13 日、宇治 G で対同志社 OB 戦が行われました。従来は宇治での定期戦に併せて開催していましたが、今年は単独で行いました。30 名を超す OB の皆様にご参集いただき、宇治の青い芝の上で心地よい汗を流しました。その後はグラウンドでのバーベキューにて、現役激励会もあわせて開催いたし、大いに盛り上がりました。今後は年に一度の宇治ホームカミングデイとして、対同志社 OB 戦を恒例行事としていく予定です。

来年はさらに多くの皆さんのご参加をお待ちいたしております。　（文責： 大藤 S62）

９月１３日撮影　宇治天然芝グラウンドにてＯＢ戦・激励会

◆ＯＢによる寄稿◆

「思い出の試合」　その１

川勝敏則（S39）

昭和 36 年度　対早稲田大定期戦

京大 17-14（前半 11-3）早稲田

日時　昭和 36 年 12 月 28 日

於　秩父宮ラグビー場

１ 米良（３）	２ 田宮（４）	３ 堤（３）
４ 松尾（３）	５ 萩原（４）	６ 鈴木（４）
７ 赤木（３）	８ 市口（２）	９ 武井（２）
１０ 徳田（３）	１１ 野田（３）	１２ 竜村（３）
１３ 松原（４）	１４ 川勝（２）	１５ 三好（４）

はっ、と正気に戻ったのは秩父宮ラグビー場のロッカールームでした。未だジャージー姿のまま、傍に付き添ってくれていたマネージャーに尋ねました。「勝ったのか、負けたのか？」。「勝った！　早稲田に勝ったんだぞ」。ロッカー内は騒然たる騒ぎでした。スタンド下の通路を通ってグランドに入った記憶はありますが、同じ通路を通って出た記憶がまったくありません。夢の世界から現実に戻ったような不思議な瞬間、感覚でした。

京大に入学してラグビーを始め２年目の私は、このシーズン、関西大学リーグ戦ではほとんどＦＬとして出場していました。しかし、練習ではＦＷとバックスの両方で経験を積み、近鉄など社会人との試合やＤＢ戦では、ＷＴＢ、ＣＴＢ，ＦＢなどで出場し、バックス経験をたくさん積ませていただきました。シーズン終了間際にバックスに怪我人が続出し、リーグ最終戦の同志社戦から右ＷＴＢで出場しました。このシーズン、京大は３勝２敗の３位の好成績をあげて、東西対抗戦に臨みました。

思い出の早稲田戦の記憶は、いくつか、はっきりとあります。前半１０分頃、同期の市口順亮君（３９年卒）が先制トライをあげて、我々を勢いづかせてくれました。そして、前半終了間際に、京大が逆サイドにキックオフする奇襲で、見事に左ウイングの「伸しん」（野田伸雄３８年卒）がノー・ホイッスルトライしたシーンも鮮やかに憶えています。（我々はこの奇襲を何度も練習し、試合でも試して来ましたが、成功したのは初めてでした）

京大が最後のトライを取ったのは後半２５分頃でした。京大ＦＷがドリブル、ルースから鮮やかに球出し、右オープンにライン攻撃、センターの熊さん（松原範幸３７年卒）が敵二人を引き付けてパス、私がボールを受け取った時には前には誰もいません。３０ヤードぐらい独走したかな、突然左後方から相手の手が足に掛かって倒れ込みました。そこがインゴールでトライ。ラッキーでした。翌日、怪我で出場できなかったレギュラーＷＴＢ，和田野光彦さん（３７年卒）から、「川勝、あの状況なら、中央に回り込んでトライしなきゃダメだ」と厳しく指導されたことを今でも憶えています。それからノーサイドまでの１５分、早稲田の激しい追い上げを耐えに耐え、忍びに忍んだ記憶もあります。味方のタッチキックがタッチ・ラインに届かず、ハラハラした記憶もあります。しかし、試合が終了した記憶がないのです。宿舎に戻って当日の夜、ＮＨＫテレビのスポーツニュースで、この大番狂わせの試合が報道されました。結局京大が３点差で逃げ切り、ノーサイドの笛と同時に京大フィフティーンが狂喜乱舞している姿がありました。何と、その中に私もみんなと一緒に万歳しているではありませんか。でも、この記憶は今もありません。多分、試合終了間際に脳震盪を起こし、記憶が途絶えたものと思います。最後の瞬間の記憶が無いのは残念です。

京大が早稲田を破ったのは終戦直後の昭和２１年以来１５年振りです。この大勝利は、たくさんの新聞のスクラップや新聞社からいただいた私のトライ・シーンの写真と共に私の一生の宝物です。

と同時に、前年、私が入学した昭和３５年に京大ラグビーの監督に就任され、星名理論の講義と実施を指導され、関西で京大旋風を巻き起こされた星名秦監督（昭和３年卒）への我々部員一同のご恩返しの試合でもありました。特に、シーズン・オフの夏休み中も、毎日、農学部のグランドに来て、私のようなビギナーに対して、走り方、キックやパスの技術、ステップの切り方などラグビーの基礎を、手取り足取りで指導いただいた星名先生へのご恩返しになったと、今でも誇りに思っている試合でした。

「思い出の試合」　その２

「京大、１５年ぶりに早大を降す」
野田信雄(S38)　米良章生（S38）徳田芳弘（S38）

昭和 36 年度　対早稲田大定期戦
京大 17-14（前半 11-3）早稲田
日時　昭和 36 年 12 月 28 日
於　秩父宮ラグビー場

１ 米良（３）	２ 田宮（４）	３ 堤（３）
４ 松尾（３）	５ 萩原（４）	６ 鈴木（４）
７ 赤木（３）	８ 市口（２）	９ 武井（２）
１０ 徳田（３）	１１ 野田（３）	１２ 竜村（３）
１３ 松原（４）	１４ 川勝（２）	１５ 三好（４）

第 一 章　FW の強さの源泉
野田伸雄（S38）　米良章生(S38)

我々の想い出の試合は、昭和 36 年 12 月 28 日、秩父宮ラグビー場で行われた、第 26 回京大対早稲田大学の定期戦、京大が 17 対 14 で勝利を収めた試合である。思い出の試合は人様々で、試合には負けたが、一プレイヤーとしては、獅子奮迅の活躍、忘れられない思い出となった試合もあれば、その逆もあろうが、我々にとっては、この試合が、実に様々なことが織り込まれた思い出の試合である。

伝統的 FW は、人並み外れた体躯の持ち主、巨漢が真っ向からぐいぐいと押し、ルースでも激しい突っ込みでボールを支配し、BK に繋ぐ、というのが役割だったが、星名先生は、FW の在り方を大きく変え、京大 FW の体格、体力でもボールを獲得し、BK に安定したボールをフイードし、それが BK の判断力、技術力、走力と相俟って、トライに繋げようというものだった。それでは星名理論のどこが、斬新だったのか？

１．星名先生の導入第一弾は、タイトで敵ボールを取りにいくことと、クイックヒールアウト（ダイレクトヒールアウトともよんだが）の二つである。その為に FW はどういう組み方をしたか？通常、タイトスクラムでは、右 PR は敵の左 PR を右にはじき出すべく、胸（首）を取りにいく。京大はそうせず、右 PR は 11 時の方向へ（つまり、相手 Hooker を向いて）組み、相手フッカーの動きを制約、京大フッカーが敵ボールを奪い易いようにした。当時は Not　Straight　Rule が今より格段に厳しく、ここぞと言う時にこの組み方は威力を発揮した。クイックヒールアウトは、HB がボールを入れると、フッカーがかいたボールをダイレクトで受けて、SO にパスする。京大左 PR は右足の右側をボールが通る様に、１時の方向を向いて組んだ。この為には相手右 PR に組み勝たねばならず、右から左へ流れ易いスクラムの動きを支え、且つ相手に組み勝たねばならないという大変な役割りを負っていた。

２．しかし、この「敵ボールを奪うこと」と、「クイックヒールアウト」という二つのスクラムワークは京大に望外の武器、強味を齎した。FW の押しのベクトルが敵 Hooker に集中し、押しが強くなると同時に非常に安定してきたことだ。ルースでは、現在のルールと異なりタックルされた者でも手でボールを扱うことは出来ず、当り勝って、ボールを支配しなければ成らず、不利な場面も多々あったが、タイトは京大がコントロールしているケースが殆んどだった。

当時の戦評をみると、相手は様々だが、「FW がルース、スクラムで強い当りをみせて優位にたった･･･」とか「体力の無さがはっきりでていた。ルースなど、パッとでないと、つぶされてしまったりして・・・」「京大 FW にセットでも自己のボールまでとられるありさま。・・・」「京大はタイト・スクラムで最初から敵を圧倒し、よくバックスに球を回し、敵の薄い防御をついて、攻撃を続けた。（対早大戦）」等々。そしてこれらの象徴が早大戦、後半６分のスクラムトライだ。前半３２分、逆サイドキック、ノーホイッスルというこれまた劇的なトライで 11-3 と前半は京大がリード。早大としては、後半何としても追い付き、追い越すぞという意気込みの高かったであろう立ち上がりの後半６分、右隅でのスクラムトライは早大の意気を挫くのに充分だったと思う。スクラムトライを狙うぞ、と声高に声をかけ合った訳では、無いが、そこは以心伝心、組んだ直後、これはいけるという思いが頭をよぎり、押し切った時の感覚は今も脳裏に鮮やかだ。

第 二 章　BK の判断力
徳田芳弘(S38)　野田伸雄(S38)

前半、京大は早大に対して 8-0 で有利に展開していたが 30 分頃から早大の反撃が始まった。京大の PK から右に回されルースから左に得意のゆさぶりで左 WTB 清水に Post 下に最初のトライをされました。しかし、このコンバートが失敗に終わったので 8-3 で止まったのです。と同時に、試合の流れをまた、京大に戻すキッカケが出来たのです。全員が「よし、とりかえすぞ」と声を駈け合い、京大陣の右サイドに集結してキックオフ体制をとりました。SO 徳田の頭脳にひらめきが走ったのです。「逆サイドの左へ蹴ろう」と。徳田は左 WTB 野田に「そっちへ蹴るぞ！」と小さな声を掛けました。」近くにいた WTB 龍村にも聞こえたようですが、他の選手 12 名はつんぼ桟敷のまま、「敵を欺くには、先ず味方を欺け」を地で行ったわけです。

冷静な徳田はキックオフしようとする時に敵の WTB はじめ、右サイドは全く油断しているのを見定めた後、狙い通りに左サイドに蹴りました。一方野田は全力で落地点に向って突進し、ワンバウンドでぴたりとキャッチ、その瞬間、早大の WTB とスパッとすれ違ったのです。あとは、無人のグランドを敵陣めがけて駆け抜けました。（11-3）

このノーホイッスルトライは、前半の早大の追撃を断ち切り、チーム全員を力づけました。ひとつ間違えば、無謀とも思われるこのプレイも、冷静な情勢判断と実行する勇気があったからこそ出来たのであり、星名先生から教えられた自主性あるプレイのよい実例となったと考えています。

第 三 章　　京大、１５年振りに早大を降す

米良章生(S38)

最後に、この試合を「思い出に残る試合」としたもう一つの理由。

１回生（昭和 34 年）の夏合宿までは、勿論２軍（DB）だったが、秋には 1 軍登用の機会も増えた。この頃、9 月～10 月は京都市役所、三菱重工（当時）大阪府警等、社会人の強豪との対戦が続き、大学チームとは練習試合が 2 試合あっただけ。公式試合は 11 月に入ってからだった。そして、秋の公式戦第 1 戦は 11 月 1 日、早稲田戦で自分にとっては謂わばデビュー戦。胸躍らせて試合に臨んだものだ。しかし、当時の早稲田は FW に志賀、加賀谷、尾崎といった全日本学生クラスを揃えており、京大は手も足も出ず、64-0 の完敗。次戦こそは必ず勝たねばといった思いよりは、いつになったら、こういう強豪チームに勝てるようになるのだろうか、どうしたら、いいのかと茫然をした記憶がある。それだけに、２年後、何はともあれ、一矢を報いることが出来た時は感無量だった。（この年の秋、星名先生はグランドに姿を見せてはおられたが本格的な指導に入られる前だった。）

◆夏合宿の写真②◆

クラブ便り　春シーズン開幕号　2016.3.28

KIURFC　2016 年度 第 1 号　京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆今シーズンへの抱負◆

只井喜信監督（S40 神戸）

今シーズンの取り組み(基本戦略)

１．シャローＤＦ
とにかく前に出て、相手を向こう向きに倒すこと。
そのために、強いタックルを出来るようにする。リロードを早く、倒れたらすぐに起き上がり次のプレーに入る。

２．速いテンポの試合運びで得点につなげること
エキストラマンを活用しトライを取りに行く。ＰＫを含め全ての場面で早く仕掛ける。

３．オフロードのパス、ハンマー等立ってプレーをすること

等を目標にすえてそれに向かって全員の意思を統一して戦いたい。

今年は志村主将が意欲的で有限実行を合言葉に、頭を使うラグビーをしたい。ＢＫは外に展開しトライ、それもセットプレーからのトライを考えたいし、ＤＦでは素早い出足で前に出て、ゲインラインの向こうで相手を倒す。セットプレーを充実させるため、特に８人同士でスクラムの練習を出来るように三菱自工やユニチカとの合同練習を多くしたく先ず４月の２日から行う予定です。
また、通常はオフになる７月にも強度を上げた練習を行う予定であり、主将以下現役部員の熱意を感じます。このように監督団、現役一同心を合わせ邁進していこうと思っています。
皆様のご支援応援を期待しています。

◆新四役による今シーズンへの抱負◆

主将　志村大智（農・甲陽学院）

本年度、京都大学ラグビー部の主将を務めさせて頂くことになりました志村大智です。今年も 1 年間宜しくお願い申し上げます。

早速ですが、この場をお借りして今年の抱負を述べさせて頂きたいと思います。今年のチームの目標は「上位校を倒し、入替戦の出場を果たす」という設定に致しました。新 4 回生が入部した頃の B リーグは「4 強 6 弱」と言われ、上位 4 校との力量の差はとても大きく感じられていました。しかし近年、上位校にその当時ほどの勢いは感じられず、また厳しい環境下でものおかげで、その差は確実に縮まっている様に感じられます。そこで今年こそ上位校を倒し、京大ラグビー部の新たな歴史を作るチャンスだと思い、現実的な目標として「入替戦出場」を掲げました。

歴史ある京大ラグビー部の主将を務めるにあたり、多くの先輩方が積み重ねてきた伝統の重みを強く感じながら、しかし何かを変えなければ結果は変わらず、常に時代の最先端を行くのが京大のあるべき姿だと思いますので、柔軟性は失わず、ただやはりぶれない一本の芯を持って 1 年間その責務を全うしたいと思っております。

硬い決意表明となってしまいましたが、あまりその肩書きに縛られることなく、まずは一選手として、ラストイヤーでどこまで成長できるかという所にフォーカスし、ラグビーに対して愚直に向き合い、全力で楽しみたいと思います。3 月より新チームは本格的に始動し、4 月に入るとリクルート活動にも本腰を入れて取り組まなければなりませんが、今後ともご支援ご声援のほど宜しくお願い申し上げます。

副将　中村雄太（農・高津）

今年、副将兼 BK リーダーを努めさせていただきます、中村雄太と申します。

今年の BK は、DF 面では相手の動きにしっかりと対応し簡単にトライを取らせないようにすること、AT 面ではパス、キックで積極的にボールを動かしていき、相手の DF ラインを崩してトライを取ることを目標としたいと思います。

また、私個人としては、この 3 年間ケガが多く、半分近くの時間をラグビーができずに過ごしてきたので、今年はケガをせずに 1 年間プレーし続けることと、今年が本気でラグビーができる最後の 1 年なので、悔いの残らないように全力を出しきることを目標としたいと思います。

最後に、昨年、肥沼元主将を初めとする 4 回生の方々が築いてくださった、京大ラグビー部を強くするための土台の上に今年は一つでも多くのものを積み上げていき、秋のリーグ戦ではいい結果を残せるようにチーム一丸となり精進していきたいと思いますので、1 年間よろしくお願いいたします。

主務　中井友也（農・福知山）

今年度、主務を務めさせていただく中井友也です。主務としてチームの運営を任されたことを光栄に思います。OB の皆様方には 1 年間、様々な場面でお世話になります。よろしくお願いします。
昨年は B リーグの勢力図にも変化が起き、今年は上位

を狙ううえで大きなチャンスといえる年になると思います。そうした中で昨年の得点源であったFWからは多くの先輩が引退され、我々にとっても大きな変化を持って新しいシーズンを迎えます。結果を 残さなければならないことはプレッシャーでもありますが楽しみでもあります。プレイヤーとしても最高学年となり、今まで以上にチームに貢献していかなければなりません。これまでのラグビーの集大成となるような、責任あるプレーでチームを引っ張っていきたいと思います。応援よろしくお願いします。

会計　杉原大樹（工・清風南海）

はじめまして。今年度会計を務めさせていただくことになりました杉原と申します。1 年という短い期間ですが、よろしくお願いします。

会計の仕事についてですが、OBの方々からお預かりさせていただきます大切なお金を使っていくにあたり責任と感謝を持って従事していきたいと思います。

もうすぐ受験を終えたフレッシュな新入生達が京都大学に来てくれます。昨年のラグビーW杯によるラグビー人気の影響もあり、今年度はたくさんの有望な新入生達が京都大学ラグビー部に興味を持ってくれるはずです。私達は、京都大学ラグビー部がさらに上を目指していく転機は今に他ならないと確信しており、勧誘活動に力をより入れたいと思います。しかし、新入生達の勧誘活動にはやはり例年以上のお金が必要となると考えられ、現役の負担がとても大きくなってしまうと懸念もしております。なので、OB の方々のお力をより貸していただければ幸いと思います。

お金の話ばかりで申し訳ありませんでした。私達はチーム一丸となって上に行く、というブレない規律を持って頑張っていきたいと思います。重ね重ね言ってしまいますが、一年間よろしくお願いいたします。

◆平成 28 年度卒業生のご挨拶◆

肥沼　直樹　主将　（農・浦和）　大学院進学

京大でラグビーがしたくてしたくて１年の春に入部宣言してから、あっというまに４年間が過ぎてしまいました。大きな怪我もなく、早い内からＡチームの試合に出してもらい、また４回では主将も務めさせてもらいました。悔しい思いは何度もしましたが、京大ラグビー部には本当に幸せなラグビー漬けの毎日を送らせてもらいました。今後はOBとして京大ラグビー部に恩返ししていけたらと思います。１年間応援有難うございました。

脇坂　知樹　副将　（工・膳所）　大学院進学

京都大学ラグビー部を引退してから２ヶ月が経ちました。毎日宇治に通っていたことがすごく昔のように感じます。4 年間いろんな方に支えていただきましたが、今年 1 年は特にたくさんの方にお世話になりました。リーグ戦 3 勝という結果でしたが、自分たちだけでは絶対成しえなかった結果です。同期をはじめ、先輩、後輩、監督団、そしてあらゆる場面で支えていただいたOBの皆様本当に有難うございました。

松岡　祐斗　主務　（教・明和）　在学

OB の皆様、主務として至らない点ばかりで、ご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、1 年間変わらぬご支援、ご声援本当にありがとうございました。昨年主務という役職につき、組織運営の一端に携わる中で、当たり前だと感じてきたものの裏に多くの OB の方の支えがあるということを実感致しました。4 年間、素晴らしいグラウンドや設備のもとでラグビーに集中して取り組むことができました。本当にありがとうございました。

時津　雄太　会計　（経・尾道）三菱東京 UFJ 銀行

監督団、ＯＢの皆様 4 年間御指導、御支援のほどありがとうございました。４年間を振り返って、入部当時のビッグマウスに見合う活躍どころか、怪我でろくに試合も出ることができず本当に申し訳ありませんでした。何度も辞めようと思いましたか、なんとか最後まで続けることができたことを肥沼組のみんなに感謝したいです。これからは１人のＯＢとして現役たちを影ながら支えていきたいと思います。

橋本　凱朝　（薬・浦和）5 回生

月並みな感想ですが、長いようで短かった 4 年間でした。運やチーム事情のおかげで幸運な事に一回生の最後の辺りから試合に出させてもらいました。高校ではＡチームに上がれなかったので、とても貴重な経験です。嬉しさも悔しさも存分に味わえたのでこれを今後に生かしつつ後輩達に少しでも還元できたらいいなと思います。ありがとうございました。

小堀　智寛　（法・明和）　伊藤忠商事

4 年間お世話になりました。大学ではラグビーを続けるつもりは無かったものの、最後に落ち着いたのはラグビー部でした。ここには 4 年間を賭ける価値があると判断した、入学当初の自分を誉めたいです。ケガもありプレーできる時間は短かったですが、自信の持てるプレーを見つけられて満足しています。ずっと一緒に過ごした同期と離れる新生活は寂しいですが、社会人としてこれまでの経験を生かし精一杯努力していきたいです。

塩尻　大也　（工・堀川）　大学院進学

今までになかったトレーナーというポジションに挑戦させていただき、ここでしかできない経験をたくさん積ませていただきました。はじめは手探りの状態でしたが、トレーニングについて日々研究し、また怪我の対処と分析を積み重ねたことで、自信をもって「トレーナーをしていました！」と言えるまで成長できたと思っています。今後はここで得た経験や知識をもって、できる限り現役に協力させていただきたいと思います。

山下　開地　（総人・旭丘）三菱東京 UFJ 銀行
格上とされるチームに勝つことを目標に 4 年間取り組んできましたが、結局リーグ戦では勝つことができませんでした。しかし、目標にむかいひたむきに努力してきたことは決して無駄ではなかったと信じているし、何よりラグビー部を通じて多くの人と結びつきを得られたことはかけがえのない宝です。悔やむ気持ちはありますが、雪辱は後輩たちが果たしてくれることを祈って、彼らの活躍を見守っていきたいです。

大久保　佑香　MGR　（京都女子大）　保育士
監督団、OB の皆様、大きなご支援、ご声援ありがとうございました。私は二年間しか部活できませんでしたが、京大ラグビー部でマネージャーとして多くのことを学ばせて頂きました。新体制になりましても、後輩たちをどうぞよろしくお願い致します。

◆寄稿　「同志社戦の思い出」◆

その 1
昭和 52 年 11 月 13 日
京大　20-39　(前半 14-19)　同志社
於　西京極

「星名秦追悼試合の思い出」

石田　徳治　（S48 追手門学院）

長年、京大ラグビー部の試合を見てきましたが強豪相手の見事なトライとしてはこの試合で CTB だった吉岡則行君のトライが私の見た京大ベストトライの五本の指に入るのではと思います。但し、だいぶ以前の試合なので記憶もあいまいで思い違いもあるでしょうがご容赦ください。

星名先生が昭和 52 年に亡くなられ、その年の京大・同志社定期戦は星名秦追悼試合ということで 11 月に西京極球技場で行われました。現在、同志社との定期戦には「星名杯」のカップが勝者に贈られていますが、この試合から始まったものです。

私自身、京大の試合を見るのは久しぶりで、確か受付で OB 会費として 5000 円払ったように記憶していますが、そんな時代です。

当時は明治の松尾や早稲田の藤原が大学ラグビーで活躍しラグビー人気沸騰の頃でスタンドには多くの女性ファンがみられるようになり、同志社大学も勿論関西一の強豪で HB 山下、CTB 矢島、山田と全日本級のメンバーが揃っていたと思います。

対する京大は吉田耕治君が主将で、FW には彼始め、森岡、真継、真田という巨漢が揃い関西一の巨漢 FW といわれており清野部長も一回生で出場していました。

試合は、吉岡君がハーフラインあたりのスクラムかと思いますが、サイドアタックも交えて見事なスピードでラインブレイクしてトライを挙げたもので、まさにラグビーの醍醐味を満喫させてくれるようなトライでした。しかも当時はスクラムのオフサイドラインは今のように 5 ヤード下がっていません。彼はもう一本ドリブルからトライをとったように思いますが、残念ながら結果は惜敗に終わりました。しかし CTB 出身の星名先生の追悼試合にふさわしい好ゲームでした。

最近はルール変更やデフェンス理論も進み、なかなかトライがとりにくくなっているとは思いますが、スクラムではデフェンスラインも 5 ヤード下がっていますし、FW が固定されるセットプレーからの攻撃で、しかも早い段階でのトライ奪取が京大のような他校に対して体格に劣るチームにとっては大きなチャンスかと思います。是非、現役の試合でも試みてもらいたいものです。

最後に星名先生の思い出から、星名先生について思い出すことは色々ありますが、ルールに違反しなければ OK というラグビーに対する斬新かつ柔軟な考え方にはいつもびっくりしていましたが、当時びっくりしたものを２つ紹介します。

一つは「シナの軽業師」と先生は言っていましたが、ラインアウトで後ろの選手がジャンパーを持ち上げるプレーで、協会があわててルールの細則を決めて禁止に。

二つ目は「縦十字」と言って、バックスがハーフの後ろに縦に一列に並ぶサイン。当時の対戦相手だった同志社の酒井さんは「京大相手の試合では考えたらあかん！惑わされてしまうので、本能のままのプレーを心掛けた」と酒の席で話していました。しかし、先日スーパーラグビーの試合を見ているとオーストラリアのチームが同じようなプレーをやっていました。30 年以上経って近代ラグビーに取り入れられたというほど「びっくりポン」なできごとでしたな。

京大ラグビーにはこんな DNA が流れていることを誇りにしたいものです。

その２
昭和 51 年 11 月 14 日
京大　12-112　(前半 6-52)　同志社
於　西京極

林　伸治　（S52　高津）

私が現役最後（昭和５１年）の同志社大学戦は、怪我人が多く（私自身も捻挫のために出場できず）、結局、４回生で出場したのは、ＦＷリーダ（プロップ）の丸橋広之君だけでした。（ちなみに、試合後のミーティングで、レフリーをしていただいた野々村レフリー（当時のトップレフリー）は、彼がキャプテンとして、プレーでみんなを引っ張っていたことを褒めておられました。）

対する同志社大学は、氏野、大西という俊足ウィングをはじめとして、多才なプレーヤーを擁し、優勝を狙っていました。

京大サイドとしては、戦力差が大きく、重い雰囲気で試合が始まりました。しかし、このような状況で、

最初に得点を挙げたのは京大、しかも、１回生でセンターとして出場した吉岡則行君のトライだったのでした。彼は、こぼれ球を足で引っ掛け、そのまま、ゴールまでドリブルで持ち込んでのトライでした。これには、京大サイドは大喜びです。

しかしながら、その後は、同志社大学の猛攻に会い、結局は、大差を付けられて前半が終了しました。

しかし、後半も、最初にトライを挙げたのは京大でした。後半早々のラインアウトでボールを得た京大は、インサイドセンターの吉岡則行君が、外側に開いて、アウトサイドセンターとのダミーシザーズを行い、ステップで体勢を立て直すと、相手のゴールまで走りきったのでした。おそらくは、センターライン近傍でのラインアウトであり、吉岡君は、５０ｍ以上を走ってのトライだったと思います。

その後は、前半と同様に、同志社大学の猛攻に会い、結局は、大差で負けてしまいました。

しかし、１回生の吉岡君が挙げた２つのトライは、強烈な印象を与えました。現ＯＢ会会長であられる石田徳治先輩は、よく、吉岡君の２つのトライの話を持ち出し、「すごかった」と絶賛されています。毒舌で知られたあの石田先輩が、です。

そして、もう１人、吉岡君のプレーを絶賛したＯＢがおられました。吉岡君の出身高校である天王寺高校で、吉岡君を指導された宇野憲治先輩（故人）です。宇野先輩とお話できる機会があり、私が、吉岡君と同世代であることを知られると、上記の同志社戦を観戦されておられ、吉岡君の２つのトライについて、「どこに出しても恥ずかしくないプレー」と絶賛されたのです。

大敗した試合ではありましたが、諸先輩に絶賛されるプレー、しかも１回生によるプレーが生まれた試合でもありました。

◆ＯＢ戦の写真～同志社大学との定期戦◆

写真提供　岡本大和（H23 岡山城東）

クラブ便り　春シーズン総括号　2016.8.1

KIURFC　平成 28 年度 第２号　京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆監督による春シーズン総括◆

～只井喜信監督(S40･神戸)～

昨シーズンは不用意というか、しなくても良いような反則が多く、それがもとで試合を落としたことを反省して、志村主将は今年のチームスローガンを『ＤＩＳＣＩＰＬＩＮＥ』　に決めてその決意を表明してくれました。

今年の春シーズンは新入部員がわずか７人という少なさでつらい幕開けになりましたが、少ないけれども即戦力になる可能性を持つ選手が多くいて４回生といえどもレギュラーの座が危うい形になっています。この状態は秋のシーズン本番に向けての楽しみです。ただ春シーズンの日程の都合上から今年の試合は殆どが定期戦になったため、メンバーの可能性を試す機会が少なくなったのが残念です。

最大の課題点は昨年度からＦＷが５人も抜けたためセットプレーが安定せず確実なボール獲得が出来なかったことです。この点を改善するべく（特にスクラム強化のため）ユニチカ、三菱自工京都等と合同練習をして来ましたが今一歩というのが現実ですが、合宿前にあと２回三菱自工へ行く予定としています。

もうひとつの課題は前に出るタックルが出来ないというか､タックルそのものの強さにも問題があります。若手ＯＢの河野君などが来て変わった練習をしてくれたので興味を持って取り組めたと思いますが、昨年のレベルより相当低くなっているので、これからそこのレベルアップに向け練習をつんでいくしかないというのが現状です。

夏合宿で全体の、そして各個人のレベルを引き上げて行きたいと思っていますので出来るだけ時間を見つけて菅平に来てください。歓迎しますのでよろしくお願いします。

◆主将による春シーズン総括◆

～志村大智主将（甲陽学院）～

本年度､主将を務めさせて頂いております志村です。春シーズンの総括をさせて頂きます。

今年の春シーズンは、全体としては例年通り３月からのスタートとなり、当初は主に基礎スキル、基礎体力の向上に努めてきました。その上で、前へ仕掛けるＡＴ､立って繋ぐプレーを意識した練習を行い、３月・４月の試合ではその成果が見られた場面もありました。

しかし、５月に入り慶應大学との定期戦で惨敗を喫し、ＤＦ、特に個々のタックルの弱さが浮き彫りとなりました。その後はシーズンを通してタックル、ＤＦにフォーカスを置いて、強度を上げた練習を行ってきました。

結果的に見れば、慶應戦の惨敗がターニングポイントとなり、徐々にチーム内にも「京大はＤＦからゲームをつくる」という意識が芽生え始めました。特に印象的だったのは、例年フィジカルの差で圧倒されて何もできずにいた立命館大学との定期戦において、結果として敗れはしたものの、何度もタックルで相手を押し返してボールを奪い、一試合を通じて粘り強くＤＦし続けたことは、チームとして大きな収穫であり、自信にもなりました｡まだまだ目標を達成するには､個々の能力やチームとしての規律の部分で足りないところはありますが、方向性ははっきりと定まったシーズンだったと言えるのではないかと思います。

それに対し、シーズンを通して大きな課題であり続けたことの１つとしてセットプレーが挙げられます。主な要因としては、昨年に比べてＦＷの人数が減り、また僕自身の怪我もあり、なかなか練習も対人で行うことができなかったことによる経験不足であったように思います。そこで、この夏の時期に課題を克服するべく重点的に取り組んでいますが、ＯＢの方々や監督団・コーチ陣のご協力もあり、大きな手応えを感じつつあります。特にスクラムに関しては、秋には武器にすらなり得るという希望すら抱くに至っております。

また、ＡＴに関しては、春シーズン中ひたすらＤＦに重きを置いていたこともあり、あまり練習時間を割くことはなかったのですが、個々のフィジカルや意識の部分で例年を上回っているためか、トライを取る能力は非常に高いと感じました。個々がゲインラインを割る頻度は多く、あとはゲイン後のブレイクダウンからクリーンに素早くボールを出し、確実にスペースをついてトライを取りきるという意識やこだわりが浸透すれば、更なる得点力につながると考えます。

最後に個人的な総括として、第１号のクラブ便りにおいて、一選手としてどこまで成長できるかというところにフォーカスを置いてやっていきたいと書きましたが、前述の通り５月の半ばに腰を痛めてしまい春の最後は思うようにプレーができませんでした｡しかし、この学年になってさえも、外から見ていて気づかされることは多々あり、いい機会が得られたと思っています。秋は、春の分も存分に暴れて、京大の歴史を変えたいと思います。また、数多くの OB の方々のご支援があってこのクラブが成り立っていることを強く実感したシーズンでもあり、厚く御礼を申し上げるとともに、今後も更なるご支援、ご声援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

◆春シーズン試合結果◆

①３月１９日　練習試合（於宇治G）
　○京大　１４－５　京大ＯＢ
②３月２６日練習試合（於大阪大学G）
　●京大　３３－３４　大阪大学（A、B、C）
　MOM　林田太助③奈良女子大附
③４月２４日　練習試合（於宇治G）
　○京大　５３－２４　神戸大学
　MOM　奥田博貴④津
④５月３日　定期戦（於慶應日吉G）
　●京大　７－１０４　慶應大学
　MOM　有澤善大②仙台二
⑤５月１４日　定期戦（於関学大第2フィールド）
　●京大　１９－６２　関西学院大学
　MOM　田中祐輝②筑紫丘
⑥５月２２日　定期戦（於宇治G）
　●京大　２６－３５　防衛大学（A）
　MOM　溝上永純③津
　●京大　１０―５７　防衛大学（B）
　MOM　大藤勇太④甲陽
⑦５月２８日　定期戦(於ＢＫＣグリーンフィールド)
　●京大　１２－６２　立命館大学
⑧６月４日　練習試合（於宇治G）
　○京大　３３－１９　大阪市立大学
　MOM　安部武①大分舞鶴
⑨６月１１日　練習試合（於宇治Gにて）
　●京大　２１－７３　京都産業大学
　MOM　田中祐輝②筑紫丘

※MOM：マン・オブ・ザ・マッチ
強化委員会が選出する、試合で最も活躍した選手。

～　関西学院大学定期戦から　～

～　防衛大学定期戦から　～

◆新人紹介◆　ひと言コメント

・安部　武　大分舞鶴　ＣＴＢ　教育
念願が叶って京都で住めるようになり、非常に嬉しく思っています。しかし、一人暮らしは慣れないことばかりで戸惑いも大きいです。4 年間で「生きる力」を身に付けたいと思っています。ラグビーでも、基本を大事にして早くレギュラーを取れるよう頑張ります。
・石田　貴一　本郷　ＮＯ．８　法学部
まずは大学生にふさわしいフィジカルを手に入れて、京大の FW に恥じないプレーをできるようにします。そして大学でまたもう一段階進化したラグビーがしたいです。
・荻野　由佳　米原 MG 京都女子大・文・英文学科
経験スポーツはバスケットボールとソフトボールです。早くテーピング、事務などのすべての仕事を覚えて少しでもチームに貢献できるように頑張ります！
・音成（おとなり）　兼光　明善　ＳＯ　薬・薬科
よく体型がサッカー部だと言われるほど身体の線が細いので、先輩方のように体を大きくしてディフェンスのできるスタンドオフになりたいと思います。また、同期には才能のある選手ばかりで少し困っているのですが､置いていかれないように努力していきたいです。
・草野　凱史　九州学院　トレーナー　同志社大・文
ラグビーに携わるのは初めてで何もわからないですが、プレーヤーの皆さんが練習や試合に集中できるよう努めていきたいと思います｡よろしくお願いします。
・桑田　智史　大手前　ＳＯ　工・工業化学
入学前の怪我の影響で春シーズンは練習に参加できず、筋トレをして体作りに励んでいました。夏からは練習に参加できるようになるので、スタメン目指して日々努力したいと思います。
・小粥　康平　堀川　ＷＴＢ　医・医
一回生で唯一の高校未経験で、周りとの差に苦しんでいますが、練習に積極的に参加し一刻も早く戦力になりたいです。
・珠玖（しく）　実里　京都成章　京都女子大・教
中・高とラグビーに触れる機会が多く、面白いスポーツだと思っていたのでマネを始めました。今までは試合を見るばかりで詳しいルールやマネの仕事はわからないことだらけですがこれから一生懸命頑張ります！
・鈴木　賢人　函館ラ・サール 工　ＦＬ　情報
1 回生の鈴木賢人です。北海道出身です。浪人したので花園には出られませんでしたが、持ち味の粘り腰で今年からチームに貢献できるよう頑張ります。
・寺島　康平　浦和　ＦＢ　経済学部
体が細いので、まずはご飯をたくさん食べ、ウエイトトレーニングに励み、大学で通用するフィジカルを手に入れたいです。努力を継続して、早く戦力になれるように頑張ります。
・中谷　萌　大教大附平野 MG 京都女子大・文学部
身長が 170cm ありその分体力もかなりあるので、4 年間全力でチームをサポートしていきたいと思います！

◆ＯＢからの寄稿◆

◎稲葉　裕（H2 麻布、関東学士ラガー倶楽部幹事）
『オックスフォード大ＯＢ中心の KewOccasionals RFC との国際親善試合開催報告』
・学士ラガー倶楽部は、京大 S52 水田時彦さん（神戸製鋼 OB、在フランクフルト）のご仲介により、５月１８日（水）に京都・西京極陸上競技場兼球技場にてオックスフォード大 OB ら中心の Kew Occasionals RFC（以下「Kew」）と国際親善試合を行いました。学士は本戦のために稲垣主将（Ｈ２５京大）を中心に京大、阪大、東大の若手ＯＢにてチームを編成しました。
　開始早々、外人特有の長い腕を生かしたブレイクダウンやラインアウトでの攻防で苦戦し、立て続けに４本トライを取られましたが、前半の後半あたりから学士の低く、激しいタックルが次々と決まり出し、アタックも FW、BK 一体となった攻撃でトライを重ねて追い上げ、最終的には２６－４０のスコアで惜しくも敗戦しましたが、最後まで集中力の切れない好ゲームとなりました。
・試合後は四条烏丸のパブに繰り出し、アフター・マッチ・ファンクションで両チームともに盛り上がり親善を深めました。出場した若手の皆さんも初めての外人相手の国際試合で、学生時代のラグビーとは一味違った、ラグビーの素晴らしさを満喫してもらえたようです。「今後、今回出場したメンバーを中心に、関西学士若手チームとして定期的に活動を続けていきたい」、「２０１８年の学士９０周年には英国遠征を実現し Kew Occasionals とロンドンで再戦したい」という声を若手の皆さんから聞くことができ、幹事としてはうれしい限りでした。
・Kew とは１９９０年（神戸）、１９９７年（ロンドン）での過去 2 回の対戦に続く、３回目の対戦となりました。先方は今回の日本遠征で、早稲田大 OB（5/15＠上井草Ｇ、３２－３１で Kew の勝利）と神戸製鋼 OB（5/21＠神戸製鋼灘浜Ｇ、７１－０で Kew の勝利）とも対戦しましたが、これら日本を代表する強豪チームに加え、学士を対戦相手として指名していただけたことは水田さんはじめこれまでの学士のメンバーの方々が Kew 創設者の Reg Clark 氏（神戸製鋼ＯＢ）他と築いてこられた Kew との強い絆によるもので、この素晴らしい関係を次の世代に引き継ぐことができました。若手の皆さんが学士ジャージを身にまとって奮戦している姿を見ることができ、不覚にも目頭が熱くなってしまいました。
・シニア戦に参戦された方、観戦に来ていただいた方、記念ネクタイを購入いただくことで資金面のサポートをしていただいた皆様、その他いろいろな形で本件実現のためにご支援いただいたすべての皆様にこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

◎稲垣　貴彦（H25 東海）
『久々のラグビー』
　はじめまして。京大Ｈ25 年卒の稲垣です。5 月に行われた Kew Occasionals との交流についてご報告させていただきます。本試合は、私にとって久々にラグビーをする機会となり、まためったに試合を行う機会のない相手との試合となり大変有意義な時間となりました。特に、学生時代に首を痛め、卒業以来ラグビーをすることから距離を置いていた私としては、久々の実戦復帰ということで期待以上に不安も強くありました。2 月ごろから首のトレーニングを中心に体を動かし始め、関西若手学士メンバーとの練習も実施しました。はじめのうちは、すぐに首の調子が悪くなり思うように体を動かすことが出来ませんでしたが、徐々にコンタクトをしても耐えられるようになっていき、徐々に不安よりも期待が高まっていきました。また、練習を行う内に大阪大学のメンバーとの親交も深まっていき、寄せ集めではなくチームで戦えるということも良かったと感じます。試合当日に半日休暇を取り、会社を飛び出して電車で会場へ向かう際には学生時代に戻ったかのような高揚感を覚えました。
　結果としては 26-40 で敗戦となってしまいましたが、学士の低いタックルと粘り強いＤＦで終始緊張感のある好ゲームになったのではと感じております。Kew Occasionals 側のメンバーも、前半に 4 トライ先制した時点で勝ったと感じたが、その後の追い上げや最後まで諦めない姿勢に狂気を感じたと言っておりました。学士としても、Kew Occasionals の個々の強さや長く強い腕を使ったプレーに苦しめられましたが、日本では中々出会えない激しさを味わうことが出来、良い経験となりました。個人的にも首を痛めることなく、かつ満足のいくタックルを何回も決めることが出来、全身筋肉痛の中にも、ラグビーでしか味わえないような充実感を感じることが出来ました。また、試合後の懇親会でもビールを通しての楽しい交流を行うことが出来ました。
　改めて、今回の貴重な機会を与えてくださった事や当日の段取りや資金面等でのサポートをしてくださった方々に若手メンバーを代表して御礼申し上げます。ラグビーというスポーツの面白さを思い出すことが出来ました。本当にありがとうございました。

◆合宿予定◆　８月（菅平高原にて）

宿泊ホテル：菅平高原　太郎館（グラウンド番号 31）
１７日（水）　午前 出発（太郎館へ）
１８日（木）　北海道大(A、B)
１９日（金）　成城大(定期戦)
２０日（土）　東京経済大(B)
２１日（日）　AM：OB 戦(B)　PM：横国大(A)
２２日（月）　OFF
２３日（火）　首都大(B)
２４日（水）　AM：東農大(B)　PM：東工大(A)
２５日（木）　下山

◆秋のリーグ戦と定期戦の日程◆

９月　４日（日）･･･同志社大学との定期戦
（京都大学宇治グラウンド）
９月１８日（日）･･･リーグ戦① vs 花園大学
12:00 Kick Off　（甲南大学グラウンド）
９月２５日（日）･･･リーグ戦② vs 龍谷大学
13:00 Kick Off　（京都大学宇治グラウンド）
１０月　２日（日）･･･リーグ戦③ vs 大阪体育大学
14:20 Kick Off　（宝が池グラウンド）
１０月１６日（日）･･･リーグ戦④ vs 大阪大学
13:40 Kick Off　（大阪大学グラウンド）
１０月２３日（日）･･･リーグ戦⑤ vs 大阪教育大学
13:40 Kick Off　（京都大学グラウンド）
１０月３０日（日）･･･リーグ戦⑥ vs 甲南大学
13:40 Kick Off　（京都大学グラウンド）
１１月１３日（日）･･･リーグ戦⑦ vs 大阪産業大学
12:00 Kick Off　（大阪大学グラウンド）＊
１１月２０日（日）･･･リーグ戦⑧ vs 大阪経済大学
13:40 Kick Off　（大阪経済大学グラウンド）
１１月２７日（日）･･･リーグ戦⑨ vs 神戸大学
12:00 Kick Off　（大阪体育大学グラウンド）
１２月（日時未定）･･･東京大学との定期戦
（京都大学宇治グラウンド）
１２月（日時未定）･･･九州大学との定期戦
（九州大学グラウンド）

◆ フォト・ライブラリー ◆

４月２４日　VS 神戸大学　練習試合（於宇治G）

撮影：岡本大和（Ｈ２３岡山城東）

クラブ便り　シーズン総括号　2017.1.31

KIURFC　平成 28 年度 第３号　京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆監督による今シーズン総括◆

～只井喜信監督（S40･神戸）～

【１．総括】

ここ数年Ｂリーグは“４強６弱”時代が続いていた。大体大、龍谷大がリードし花園大が続き、これらの次に大産大､そして今年は大教大がほぼ同じ強さを示し、新たに“５強５弱”時代になったように思える。それに加えて上下の差は少なくなったようだ。今年の目標は上位にくいこみ３位になることを目標とした。

先ず初戦の花園大戦算は惨敗。緊張から闘志が空回りをし、硬さが見られ、平常心を失った立ち上がりとなり終始相手にペースを握られた試合となってしまった。第２戦の龍谷大戦は全員が落ち着いた状態で試合に入ることが出来、目標とする前に出るＤＦも機能している場面も多く見られた。しかし大事なところでラインアウトのミスを連発してトライチャンスを逃してしまった。第３戦の大体大戦では、大きな相手ＦＷの重量に圧倒され完敗。結果第一クールはスクラムや前に出るＤＦなど上位チームにも通用する部分が見られたものの、肝心なところでミスが多く３連敗で終了。

第２クール以降はスクラムを押し勝つことで試合を有利に進めることが出来、特に阪大戦や甲南大戦はスクラムで相手を圧倒し続けたことが大きな勝因であった。しかし勝負どころでのミスを改善できないまま、僅差の試合を２つ落とし、結果は２勝７敗。９位となり入替戦にまわり、その試合も焦りから普段と全く違うラグビーをしてしまい敗戦になってしまった。純粋なフィジカルの部分でも追手門大の選手に負けており、今後はこれを補うトレーニングが必要と全員が感じてくれたはず。精神面でも試合中に訪れた良い流れを確実に物にする勝負強さを身に着けねばならない。

【２．個々のプレー】

ＦＷのセットプレーは春先から大きな課題でした。６～７月 にかけての練習の成果でもあるがスクラムが格段によくなり今シーズンの京大の強みとなった。

ラインアウトではマイボールを取れるようになったが大事な場面でのミスが目立ちトライチャンスを逃すことが多かった。

ＢＫは昨年のメンバーが多く残り、今期の得点源として期待をしていたが、リーグ戦直前の試合でハーフ団が負傷しリーグ戦に殆ど出られない苦しい試合となってしまった。その中で個人的に大きく伸びた選手もおり、来シーズンは期待したい。

ＤＦでは前に出るディフェンスがＦＷ、ＢＫ共にそれなりに出来ていたと思うが、フィジカル面で優れた相手プレーヤーに通用する選手は少なく、個人のレベルアップが必要不可欠である。

◆主将による今シーズン総括◆

～志村大智主将（甲陽学院）～

本年度、主将を務めさせて頂きました志村です。はじめに、１年を通じて OB の皆様には多大なるご支援を賜りましたことを心より御礼申し上げるとともに、その期待に結果で応えることができず、C リーグ降格という事態を招いてしまったことを深くお詫び申し上げます。

今シーズンを振り返ると、チームとしては春から大きな成長を遂げ、夏合宿を経て確かな手応えを感じつつ秋を迎えたものの、結果がついてこなかった、というのが率直な印象です。シーズンを通してこだわり続けてきたタックルとスクラムは試合を重ねるごとに成長が見られ、特にスクラムは夏以降ほぼすべてのゲームで相手を圧倒できるまでの実力をつけ、確実に今年度のチームの生命線となっていました。春には最大の課題であったセットをここまで強みにさせてくれたチームメイトを誇りに思います。

ただ、リーグ戦でいい結果を残せなかったことは、チームとしての成長も確かに実感としてあっただけに、悔しくもあり責任を感じているところでもあります。今年度は春から生身でのコンタクト練習を増やし、接点で負けないチーム作りを目指してきました。その成果は春の強豪相手の定期戦から見られ、フィジカルだけで終始圧倒されることは無くなり、こちらの強みを出すことができた時間帯も増えていきました。ただ、どうしてもフィジカルで劣ってしまう分、後半までペースが続かないこともあり、夏以降からリーグ戦期間にかけてはセットの強化と同時にコンタクトレベル、フィットネスレベル共に強度の高い練習を継続して行ってきました。その成果として、シーズンに入ると走り負けるゲームは無かったものの、あまり危惧していなかった AT の部分でなかなか噛み合わなかったり、やはりフィジカルの差でやられてしまったりと、勝負の厳しさを思い知らされる結果となってしまいました。

多少予測の甘さや、変わりゆく状況に柔軟に対応できなかった部分もありましたが、きっとチームとして強化の方向性は概ね間違っておらず、選手もそれを信じてハードワークしてくれたからこそ、シーズンの中で手応えを感じる場面も多々ありました。特に、この一年間多くの時間を割いてきたスクラムとタックルについては、ゲーム中も含めて多少頼りすぎたところもあったかもしれませんが、とことんこだわったことによって見えてきた価値や教訓もあったと思います。こういった経験もふまえて、新体制には前のチームでまだまだ突き詰めが足りなかった部分を吟味し、それを

これまでの努力に積み上げていってもらえればと思います。その上で、新チームとしての京大らしさ、オリジナリティを発揮できるようなチーム作りを期待したいです。最終の目標と現状のギャップを正確に捉え、その目標に向けて春のうちから一試合一試合、さらには一日一日の練習の中でも小さな課題を設定し、それを達成すべく皆が意欲的にラグビーに取り組めるような環境ができれば、きっといい結果が得られると思いますし、それだけの底力は持っている集団だと信じています。

来季、自分としては最若手 OB としてグラウンドで身体を張ってクラブに還元することもそうですが、主将としての経験や今年度の反省も踏まえて、新体制をプレーの観点のみならずそういった様々な形でサポートしていけたらと思っています。また、近い世代の OB の方々の協力も得ながら、現役と OB がグラウンドレベルでチームにとっていい連携を取れるように、何か橋渡し的な役割もできればと考えています。そのためにも、もう一度客観的にこの一年間を見つめ直し、今後の自分の人生にも活かしていきたいと思います。４年間、誠に有難うございました。

◆新勧状況とリクルート活動へのご協力お願い◆

～強化委員会リクルート担当　村上睦明（H06）～

常日頃の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。強化委員会のリクルート関係を担当する村上睦明(H６卒)と申します。宜しくお願い致します。

この度、新しい体制で新チームがスタートするに当たり、目標は B リーグ復帰とはっきりとしています。各選手の身体作り、新チーム構想等準備を除けば、新人勧誘に向けて情報集めが重要な時期です。OB 諸氏の皆様のお蔭により集まった情報を元に、学生が新１回生を勧誘して参ります。将来のチーム作りの為に新歓活動はたいへん重要なことだと考えます。近年、大学全入時代と言われ、他大学では我が京大ラグビー部に比べて遥かに選手の獲得がしやすい状況にあり、このままではディスアドバンテージが広がっていきます。何卒継続して未来の京大ラガーマンを育てていく長い目でのご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。その為にも新歓の時期だけではなく、年間を通じて OB の皆様の出身高校への訪問もお願いさせて頂きたく存じます。また、現在の部員数は近年、僅か４０名前後で推移しており、素晴らしいラグビー経験者は多いですが、未経験者の数が少ない状況があり、人数を増やす為にも、他スポーツ経験者にも積極的に声をかけていく必要があります。

以上を踏まえまして、努力を積み重ねて参りたく存じます。宜しくお願いします。

～新勧代表　森野達平（新３回生兵庫）～

2017 年度新歓代表を務めます、森野と申します。昨年の新歓は粒ぞろいの新入生が入部してくれましたが、プレーヤーの人数自体は７人と心許なく、今年は十分反省し、これを大きく上回ることが求められます。ただひとつ、スタッフが４人加入してくれたことは先を見据えると喜ばしいことであります。チーム力向上のためにもスタッフは毎年部員を増やし、より強固なチーム作りを一緒にしていければと考えています。今年の新歓にはスタッフにも例年以上に積極的に参加してもらうつもりです（具体的には、私たちの考えの及ばない、スタッフの新歓企画の考案などのリードなど）。が、しかしプレーするのは選手です。まずは、1 学年 15 人のチームを作る足がかりとなる年にするべく奮闘しようと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は監督も変わり、チームに少なからず変化が起こると考えられます。まっさらな新入部員は、体制の変化にとまどう現役部員を尻目にどんどん成長して行ってくれるはずです。B リーグへ舞い戻るという確固たる重厚な目標がある中、新戦力たちはそのエネルギーで、近年成し得ていない A リーグへまでも私たちを押し上げてくれるはず・・・。やや大仰な物言いですが、それほどに今年の新歓は重要であると私は感じております。

OB の皆様、いつも新歓にご尽力いただきありがとうございます。当方頼りない限りでご迷惑をかけることも多々あるかと思いますが、どうぞ温かく見守っていただき、時には厳しいお声や助言をお寄せいただけるとありがたいです。何卒、ご協力よろしくお願いいたします。

◆ フォト・ライブラリー ①◆

１０月２３日　VS 大阪教育大学（於宇治Ｇ）

◆秋シーズン試合結果◆

①９月４日　定期戦（於京大宇治G）
●京大Ａ　１２－７４　同志社
MOM　石田貴一（1回　本郷）
②９月４日　練習試合（於京大宇治G）
●京大Ｂ　１２－１０３　同志社
MOM　森野達平（2回　兵庫）
③９月１８日　リーグ戦第一節（於甲南大G）
●京大　２１－５５　花園大
MOM　安部　武（1回　大分舞鶴）
④９月２５日　リーグ戦第二節（於京大宇治G）
●京大　１４－３６　龍谷大
MOM　中村　雄太（４回　高津）
⑤１０月３日　リーグ戦第三節（於宝ヶ池G）
●京大　０－６０　大阪体育大学
MOM　田中　祐樹（２回　筑紫丘）
⑥１０月１６日　リーグ戦　第四節（於大阪大G）
○京大　３３－１９　大阪大学
MOM　中井　友也（４回　福知山）
⑦１０月２３日　リーグ戦第五節（於京大宇治G）
●京大　１２－５５　大阪教育大学
⑧１０月３０日　リーグ戦第六節（於京大宇治G）
○京大　５６－３８　甲南大学
MOM　石田貴一（1回　本郷）
⑨１１月５日　練習試合（於近畿大学G）
○京大（B＋医学）　０－１１０　近畿大学
⑩１１月１３日　リーグ戦第七節（於大阪大G）
●京大　１９－５０　大阪産業大学
MOM　安部　武（1回　大分舞鶴）
⑪１１月２０日　リーグ戦第八節（於大経大G）
●京大　１４－２２　大阪経済大学
MOM　鈴木　賢人　（１回　函館ラ・サール）
⑫１１月２７日　リーグ戦第九節（於大阪大G）
●京大　５－６　神戸大学
⑬１２月１１日　ＢＣ入替戦（於甲南大G）
●京大　１０－５７　追手門大学
Ｃリーグ降格
⑭１２月１７日　定期戦（於コカコーラG）
△京大Ａ　１７－１７　九州大学Ａ
MOM　志村大智（4回甲陽）
MOM　高濱亮介（4回浦和）
●京大Ｂ　１２－２４　九州大学Ｂ
MOM　森野　達平（2回　兵庫）
⑮１２月２４日　定期戦（於京大宇治G）
○京大Ａ　２８－２６　東京大学Ａ
MOM　大藤　勇太（4回　甲陽）
○京大Ｂ　２１－５　東京大学Ｂ
MOM　寺島　康平（1回　浦和）

※ＭＯＭ：マン・オブ・ザ・マッチ
強化委員会が選出する、試合で最も活躍した選手。

◆OB 活動報告◆

①12/24 学士東西対抗戦の開催
東京大学との定期戦に先立ち、学士東西対抗戦が宇治グランドにて開催されました。前日の降雨によりグランド状態は芳しくありませんでしたが、泥臭くとも白熱したゲームとなりました。

参加メンバー：53 高橋,S56 亀岡,願野,S57 中村,S59 岡市, S60 宮島, H1 吉川, H2 稲葉,坂口, H3 幡, H5 有本,今林、宮本, H6 河合,樺井,雲田,戸田, H12 相原, H24 但馬, H26 市橋, 鐙塚, 真嶋, H27 赤塚, 山敷, 中島, 井上, 飼沼, H28 肥沼, 松岡, 塩尻（以上京大 OB）,S43 佐藤, S63 富沢, H2 田村, H21 笹井（以上東大 OB）,S59 孔（以上阪大 OB）、レフェリー二見（同志社 OB）

②関西地区での OB チーム結成に向けて
関東ではクラブチーム「イエローバックス」が精力的に活動されていることは OB 諸兄もご存知のところだと思います。関西でも昨年 5 月 18 日に開催された学士 VS Kew Occasionals をきっかけとして関西在住の OB がラグビーを楽しめるチームをつくろうという動きが出てきています。
■活動コンセプト
・関西 s 在住の OB を中心に、多くのメンバーがラグビーをできる環境を作る。
・OB がグラウンドで体を張って現役の練習相手となり現役強化に貢献する。
・母体は学士ラガー倶楽部とする。
■活動内容
・練習会の開催
・メンバー母校との合同練習や練習試合を行う。
（※大会参加などは追って検討していく。）
■メンバー
関西在住の旧七帝大ラグビー部 OB
＜現在の活動状況＞
①　初回の活動計画として
京大現役部員との合同練習 or 練習試合を計画中。部員の試験期間終了後に本格的な予定を調整する。
②メンバーについて
Kew Occasionals 戦で構築された人脈をたよりに京大・阪大・東大 OB を中心に参加への呼びかけを開始した。 京大 OB は既に井口組(H23)～志村組(H29)までの広い世代でメンバー集めをしている。
今後、具体的な活動が始まれば、クラブ便りでもご紹介していきます。

◆平成 29 年度の新三役◆

主将：溝上 永純（津　ＳＯ）
副将：小川 拓朗（西大和学園　ＮＯ８/ＦＬ）
主務：高木 敦司（東海　ＷＴＢ）

◆ 連 絡 先 等 ◆

[redacted]

◆ フォト・ライブラリー ②◆

１１月２７日　VS 神戸大学（於大体大Ｇ）

１２月２４日　東京大学定期戦（於宇治Ｇ）

撮影：岡本大和（Ｈ２３岡山城東）

◆ 編集部より◆

クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。また、こんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただくことになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今林浩史（H05）
村上睦明（H06）

クラブ便り　春シーズン開幕号　2017.4.20

平成 29 年度 第１号　京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆退任監督より挨拶◆

～只井喜信前監督（S40･神戸）～

昨年の志村主将のチームを振り返ってみると近年まれな良いチームだったと思っています。

ＢＫは前年からＷＴＢの１人が卒業で抜けただけであり、ループやエキストラマンの参加といった様々なサインプレーにも取り組んでいました。ＦＷは春先は心配だらけでしたが、１回生を抜擢し練習を重ねることでセットプレー、特にスクラムに自信を持つ強力なチームに仕上がっていました。

敗因を探るとまず１番に、初戦の花園大戦で極度の緊張で上がってしまい全く自分たちのプレーができずに敗戦したこと、そして自慢のＢＫもリーグ戦前の同志社戦でハーフ団が負傷し、その後の試合に出られなかったことなどがあり、こういった失敗が残念な結果に繋がってしまいました。

しかしながら個人の地力もついてきているので今年は溝口新監督のもとで好成績を期待しています。

◆新監督より挨拶◆

～溝口正人新監督(H02･神戸)～

会員のみなさま 、こんにちは。新監督の溝口です。今年一年よろしくお願い致します。

さて新チームですが､２月４日よりオフ練を開始し、その後３月１日に正式にシーズンインし、３月は４勤１休（１クール５日間）で練習に励んでおります。

シーズンインに先立ち、部全体でキックオフミーティングを行い､その場で今期の目標を〝Ｃリーグ制覇、Ｂリーグ昇格〟とすることに全員一致で決定致しました。しかし、私自身の経験や現在のＣリーグ・Ｂリーグの各チームの実力を冷静に分析すれば、この目標に照準をあわせた練習やチーム造りをしていては、おそらく数年経ってもＢリーグに上がることはできないと考えます。その先にあるものを絶えず見据え、現役の皆とよく話し合いながらチームを造っていきたいと思っております。

そこで今期の取組についてですが、特に奇を衒ったようなことをするつもりはありません。本来、当然の事としてやるべき事をひとつずつやっていこうと考えています。

先ずは『挨拶と返事の励行』『環境整備（掃除）』から始めました。

次に監督団・現役間、現役同士のコミュニケーション不足解消を主たる目的として、１クールごとの全体ミーティング、監督団と現役リーダー間での毎日のメーリングリストによる意見交換、ラグビー用語の統一、各プレーヤーの健康管理、練習内容の見える化、そして現在は各コーチ陣による部員達との個別面談に取り組んでおります。

特にプレーヤーのケガの状況把握や出欠確認、練習の事前準備やタイムキープ等においては、現役のマネージャー・トレーナー達が大いに活躍し始めてくれており、日々の練習においても、事前にたてた練習メニューの消化状況や振り返り、その日のプレーヤーのケガの状況等が毎日報告としてあがってきております。

強いチームというものは、こういうことが自然と出来ているものだと私自身思っておりますし、現役が掲げる今期スローガンの〝responsibility〟は個々人が責任感のある行動をとるという強い意志が込められており、日々の練習や活動の中に少しずつですが、いいチームに成長してくれる兆しを感じております。

なお春シーズンの予定ですが、４月は３月からやってきたフィットネス、基礎スキル練習の継続と新歓に注力致します。新歓では２０名の新入生獲得を目標にOB の方々のご協力の下、精力的に活動を始めております。

５月の中旬以降、立命館大学との定期戦を皮切りに毎週Ａ戦もしくはＢ戦を予定しておりますので、お時間許すようでありましたら、是非グランドで現役の勇姿をご覧になって下さい。

最後になりますが、今期の戦い方については、今後の新歓・練習・ゲームを通じ、現役のやりたいこと、勝つ為にやらなければならないこと、そして今の京大ラグビー部としてやれることをアジャストして決めていきたいと考えております。

彼らなら、必ずやＢリーグ復帰という今期目標を達成してくれるものと信じておりますので、みなさまも引き続きご声援の程よろしくお願い致します。

◆新任コーチより挨拶◆

～藤井宏二コーチ(H03･宇部)～

Ｈ３卒の藤井です。昨年まで強化委員長を拝命しておりましたが、今年から、ＢＫヘッドコーチを務めさせていただいております。

今年、京大はＣリーグを戦い、Ｂリーグ昇格を目指しますが、過去Ａ，Ｂ，Ｃの各リーグを経験しているのは、溝口新監督（H2 卒）小生の学年（H3 卒）だけ

であり、当時の三好監督と我々がほぼ同じ年齢に差し掛かっていることを思うと、今回の成り行きに、少々運命的なものを感じています。現役諸君には、是非、我々と同じ体験（ただし、順序は逆ですが）をと願いつつ、日々試行錯誤を重ねながらコーチングに取り組んでいます。

さて、小生は神戸製鋼で社会人ラグビーを経験しましたが、その後のプロ化も経て、ラグビー界の状況は随分と様変わりしてきています。それは、大学ラグビーにおいても同様で、大学選手権を８連覇した帝京大学のマネジメント体制や、関西大学Ｂリーグの各チームにもプロコーチがひしめく現状等、いずれをみてももはやカレッジスポーツの枠を超えるスポーツになってきたと感じます。

しかし、だからこそ京大には可能性があるとも思います。溝口新監督の指揮のもと、現役諸君のラグビーのプレーヤーとしての能力、さらには、オーガナイザー、マネージャーとしての能力を引き出し、個々の弱みを克服して、組織として強者に対抗できるチームづくりに寄与していきたいと思っています。

さて、２０１７年溝上組は２月のオフ練から活動をスタートし、プレーヤーとして順調に力を伸ばしています。スタッフも、トレーナー、テクニカル、広報など新たな役割に一生懸命に取り組んでいます。

ＯＢの皆さまには、是非グランドに足を運び、彼らの成長を実感していただきたいと思います。ご支援のほど、何卒よろしくお願いいたします。

◆新四役による今シーズンへの抱負◆

～溝上永純主将（津）～

本年度主将を務めさせて頂くことになりました溝上です。今年一年宜しくお願い致します。

昨年は 21 年振りに C リーグ降格という悔しい結果に終わってしまいました。しかし、このことをマイナスに捉えるのではなく、ここ数年 B リーグ下位にとどまり、現実的で明確な目標を見失っていた京大ラグビー部を変える、いいきっかけになると考えています。

B リーグの下位にとどまっていた京大ラグビー部を自分達の代で変えるためには、B リーグ復帰という目標を達成するだけでなく、A リーグで通用するチーム作りをしなければなりません。そのために、監督団、同期、後輩達と密にコミュニケーションを取り、頭を使いながらこの一年を過ごしたいと思います。また、普段からのクラブハウス、部室の掃除、挨拶など、一見ラグビーに関係のないような部分にも今年からは気をつけていき、徹底していくことも強く意識していきたいと思います。

また、自分は去年、一昨年と A 戦に出して頂きましたが、リーグ戦になると BK のアタックがあまり上手くいかず、FW に頼り過ぎてしまい、とても不甲斐ない思いをしてきました。去年、一昨年の主将は FW が務めていましたが、今年は BK である自分が主将を務めさせて頂きますので、BK が FW を引っ張れるような BK ラインを今年は作りたいと思います。

最後になりましたが、昨年 C リーグに落ちてしまいましたが､やってきたことに間違いはないと思います。それを証明し、去年の 4 回生、先輩達へ感謝を伝えるため、また後輩のためにも B リーグ復帰を果たしたいと思いますので、今後ともご支援ご声援のほど宜しくお願い致します。

～小川拓朗副将（西大和学園）～

今年度、副将兼 FW リーダーを務めさせていただきます、小川拓朗です。今年度の抱負を述べさせていただきます。

今年のチームの目標は B リーグ昇格であり、必ず果たさなければならない目標です。京大ラグビー部は毎年アタックでの決定力を欠いており、接戦になっても攻め手がなく勝ち切ることができません。そこを修正し、強みである粘り強いディフェンスを更に強化していきたいと思います。自分達がスキルの高い私立大学相手にどのようにして勝利するかということに焦点を当てて練習をしていきたいと思います。FW に関してはセットプレーで確実にマイボールをキープすること、昨年の課題でもあったゴール前でトライを取り切れないことを課題に挙げて練習に取り組んでいきます。

個人的には怪我が多かったので試合に出場し続けることを目標に、最後の 1 年チームに貢献したいと思います。最上級生となった今年はチームを引っ張っていくために、誰よりも体を張り、激しいプレーを心がけていきます。また、春シーズンは病院実習のためほとんど練習に参加することができず、チームに迷惑をかけますが、トレーニングなど出来ることをしっかりと行っていきます。1 年間よろしくお願い致します。

～高木敦司主務（東海）～

今年度、主務を務めます高木敦司です。OB の皆様には 1 年間お世話になることと思います。宜しくお願い致します。

昨年は悔しいことに、C リーグ降格となってしまいました。しかし、だからこそ今年は京都大学のリーグ戦であまり勝てないというここ数年の良くない流れを断ち切る良い機会だと思います。そのためのチームの土台作りを 4 回生として行っていくとともに、少しでもチームを引っ張れるようになれたらと思います。チームを引っ張るといってもプレーだけではなく、普段の挨拶や掃除、暗くならないなど意識して行うことが出来ることを心がけていきたいです。

また、プレーヤーとしては当たり前ですが、さらに貪欲に成長していきたいと考えています。最後の年に後悔の無いよう、まず体作りや基本的なプレーの精度の向上と行ったことに一から取り組んでいきたいです。他にもオフェンスではよりゲインできるよう、ディフェンスではタックル精度を上げることを目標としていきたいです。そうすることによってチームの勝利に貢献していけることになると思います。

最後になりますが、これからもご声援のほど何卒宜しくお願い致します。

～西谷真知会計（公文国際）～

初めまして、本年度会計を務めます西谷です。お金を預かるような大事な仕事は今まで経験がなく不安も多いですが、一年間よろしくお願いします。

会計はOBの皆様のお助け無くして成り立たない仕事ですので、今年もご協力をお願いいたします。

選手としては昨年一年間を膝の怪我で棒に振ってしまっているので、最高学年としても勿論、一段と気を引き締めてラグビーと向かい合いたいと思います。

◆平成28年度卒業生の挨拶◆

志村大智主将（農・食品、甲陽学院） 大学院進学

4年間の大学生活を振り返ったときに頭に浮かぶのはラグビーのことばかりで、それだけ自分の大学生活に占めるラグビーの割合が大きかったことを改めて実感しています。長い間、様々な環境でラグビーをしてきましたが、ずっとただ好きだからという理由で続けてきたラグビーが、この4年間を経て一層好きになれました。そんな体験をさせてくれた京大ラグビー部というクラブに感謝し、これからはそれを後輩のために還元していこうと思います。

中村雄太副将（農・森林、高津） 大学院進学

4年間ケガばかりで、結局試合で自分の理想とするプレーができずに終わってしまい、とても後悔の念が強いです。一方で、練習やトレーニングで部員のみんなと汗を流した日々は、本当にかけがえのない幸せな時間であったなとも思います。なので、もっとみんなとラグビーをしたかったというのが本音です。最後になりましたが、同期、先輩、後輩、監督団、コーチ陣、OBの皆様4年間本当にありがとうございました。

大藤勇太（法、甲陽学院） 京都大学

引退してから2カ月が経ちこの4年間を振り返ってみますと、楽しいことより辛いことの方が多かったなと改めて思います。そんな中ここまでラグビーをやり切り引退することができたのは、偏に周りの支えがあったからです。今までは助けてもらってばかりでしたので、これからはOBとして少しでも京大ラグビー部に恩返しが出来ればと思っております。4年間ご支援ご声援頂き本当にありがとうございました。

奥田博貴（工・建築、津） 大学院進学

最上回生となり、チームの運営を担う中で、OBの皆様の支援にいかに助けられているか、大きく実感致しました。本当にありがとうございました。4年間を振り返ると、最後の1年がやはり一番印象に残ります。入れ替え戦に負けた時は、自分の4年間が否定されたかのような気持ちになりました。正直、今でも気持ちの整理ははっきりとはついていませんが、これからは一人のOBとして、チームを支えていきたいと思います。

杉原大樹（工・物理工、清風南海） 京都大学

はじめに、4年間、いや、3年間京大ラグビー部で過ごすにあたり、御支援いただいたOBの皆様に感謝申し上げます。3年間というのは、僕は2回生からの途中入部でして、実力的にも人間的にも未熟な僕をラグビー部は受け入れてくれました。このラグビー部生活で、時にはたくさん辛いこともありましたし、自分の選択を後悔したこともありました。しかし、やりきったということが、きっと今後の人生で大きな意味を持つことになると信じています。これからは、この3年間の経験をもとに、全力でクラブの役に立ちたいと思います。

高濱亮典（文・浦和） 新日鉄住金株式会社

宇治のグラウンドで入部宣言をしてから4年間、苦しくも楽しい、充実した日々を送ることができたなと思っています。リーグ戦の結果やけがが多かったことなど後悔がないわけではないですが、京大ラグビー部に入ってよかったと胸を張って卒業することができます。このような貴重な4年間を過ごすことができたのは、同期、先輩、後輩そして監督団をはじめとしたOBの皆様のおかげであると感謝しています。4年間お世話になりました。

中井友也（農・資生、福知山） 毎日放送

大学生活を振り返ってもほとんどがラグビーに関わることばかりです。しんどいことでも乗り越えられたのは、尊敬できる仲間や信頼できる指導者の方々がいたからです。最後の東大戦で勝てたこととその喜びは忘れません。4年間、また最後の1年は主務という役職も経験させていただき、多くのOBの皆様にお世話になりました。本当にありがとうございました。

西脇甲修（農・食環、都市大附属） 住友商事

大学では新しいスポーツを始めようと思いラグビー

を初めてからあっという間に 4 年間が過ぎていました。特段活躍できるプレーヤーではありませんでしたが、自分としては本当に充実した日々を送れたと思います。また４回生になって、ＯＢの方々の支えがあるからこそ自分達がラグビーを出来ているということを実感しました。これからはＯＢとして現役の選手たちを応援していきたいです。

橋迫拓也（法、佐伯鶴城） 電源開発株式会社

振り返ると長いようで短かった四年間でした。当初は大学でラグビーをするつもりはなかったのですが練習を見学してラグビー部の雰囲気に惹かれ気付くと入部していたことを思い出します。そしてその選択は間違っていなかったと思っています。これからは一 OB として京大ラグビー部を支えていきたいと思います。監督団、OB の皆様、チームメイトの皆、四年間ありがとうございました。

進路：電源開発株式会社

吉田雅理（農・森林、北野） 大学院進学

四年間京都大学ラグビー部で過ごした日々は、私にとってかけがえのないものであったことを、ラグビー部を引退した今実感しています。私は京都大学ラグビー部に入部して、ともにプレーした先輩方や後輩のメンバー、応援してくださった OB の方々、同期のメンバーといった、多くの人と関わるなかで、ラグビーだけでなくさまざまな面で自分が未熟であったことを認識しました。今後、京都大学ラグビー部を引退した今よりも、さらに成長していくことができるように励んでいきたいと思います。

～～～～ 3/19 追い出し試合 ～～～～

◆春の練習試合と定期戦の日程◆

４月２３日（日）･･･新入生歓迎試合
vs 京都工芸繊維大学（京都大学宇治グラウンド）
５月１４日（日）･･･立命館大学定期戦
時間未定（京都大学宇治グラウンド）
５月２０日（土）･･･慶応大学定期戦
時間未定（京都大学宇治グラウンド）
５月２７日（土）･･･練習試合 vs 関西大学
時間未定（関西大学グラウンド）
６月　４日（日）･･･防衛大学校定期戦
時間未定（防衛大学校グラウンド）
６月１１日（日）･･･練習試合 vs 大阪市立大学
時間未定（京都大学宇治グラウンド）
６月１７日（土）･･･関西学院大学定期戦
時間未定（京都大学宇治グラウンド）
※試合時間が決定しましたら、メールでご案内いたします。また文末に記載の HP にて告知します。

◆ 連 絡 先 等 ◆

[redacted]

◆ 編集部より◆

クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。また、こんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただくことになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今林浩史（H05）
村上睦明（H06）

クラブ便り　春シーズン総括号　2017.8.1

平成 29 年度 第 2 号　京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆監督による春シーズン統括◆

～溝口正人監督（H02・神戸）

3 月 1 日より始まった春シーズンも 6 月 17 日の関西学院大学との定期戦をもちまして、特に大きな事故もなく無事終了しましたこと報告いたします。会員のみなさまにおいては、数多くグランドまで足をお運び頂き、部員たちに熱い声援を頂戴し誠にありがとうございました。みなさまの声が部員たちを何度も奮い立たせてくれたと思います。

また、芝生のメンテナンス、リクルート活動へのご協力そして経済的なご支援と、本当にこのクラブは現役の部員達と会員のみなさまで成り立っているんだなと、監督をやってみて改めて感じております。

春のトピックスとして、斜面にビデオ撮影用の足場（写真①）と、練習後のアイスバス用に大型の製氷機（写真②、③）を設置して頂きました。ありがとうございます。グランドにお越しの際は是非ご覧になって下さい。

さて、春シーズンの成果ですが、①チームビルド②リクルート③ゲーム結果の三つに分けて報告致します。

①については、挨拶と掃除から始め、スタッフを中心とした役割の徹底、プレーヤーの健康管理等、当り前のことを当り前にできるチームを目指してやってきました。一応の成果は出てきていますが、誰もが初めての経験も多くまだまだ足りない部分も多々あるかと…。大事なのは「やる気（責任感）」と「コミュニケーション」だと思いますので、その点を意識し、これからも、よりいいチームになっていって欲しいと思います。

②のリクルートですが、最終 15 人（プレーヤー11 人、マネージャー4 人）の新しい仲間を得ることが出来ました。プレーヤーで 15 人獲得を目標にしておりましたので、人数的には満足しておりませんが、やる気とセンスを感じさせてくれる非常に有望な新入生ばかりですので、私も期待しておりますが、みなさまも是非楽しみにしておいてください。

③のゲーム結果ですが、残念ながら満足のいく結果は出せませんでした。3 月から身体作り、フィットネス、基礎練習の反復を撤退してやり、5 月のゲームはチーム全員に出場のチャンスを与えるセレクションマッチとして、そして 6 月の 3 試合（防衛大定期戦、大阪市大練習試合、関西学院大定期戦）を全部勝ちにいくという目標で進めてまいりましたが、結果は 2 敗 1 分け。どのゲームも充分に勝つチャンスはあったと思いますが、勝てるゲーム、勝たなければならないゲームにキチンと勝ち切るまでのチカラは未だ付いていないというのが、現段階での実力だと感じております。

今後の予定ですが、8 月 1 日からシーズンを再開し、暑い京都で充分に走りこんでから 17 日より菅平での合宿を行います。「夏を制する者がリーグ戦を制する」と言うかどうかは知りませんが、そんな気持ちで夏の練習やゲームに臨んでいって欲しいと思っています。

暑い中ですが、お時間許すようでしたら、是非宇治のグランドもしくは菅平まで足をお運び下さい。元気な現役の学生達がお待ちしております。

写真①　ビデオ撮影用足場

写真②大型製氷

写真③　アイスバス

◆主将による春シーズン統括◆

～溝上永純主将（津）～

今年度主将を務めさせて頂いております溝上です。春シーズンの総括をさせて頂きます。

春シーズンはハンドリング、タックル、ブレイクダウン等の基礎スキル向上、シャローDF の徹底を目標とし、スタートしました。4 月の阪大戦では練習の成果があまりでず、なんとも言えない結果となりました。しかし、新歓期を終え、5 月の立命戦に向けての北川コーチ主導の合宿を機に部全体の体力、気持ちの面で大きな変化があり、立命戦では敗戦したものの 3 月から継続してきたハンドリング、DF を活かしながら試合終了まで走りきることができました。

この立命戦を機に手応えを掴み、今までやってきた基礎スキル練習の継続、北川コーチ主導の合宿で行ったフィットネスの継続を春シーズン通して行いました。

結果として慶應や関学といった強豪相手に敗戦したものの、例年より明らかにいい試合ができ、手応えを感じました。

また今年の春シーズンは例年よりもポジション争いが激しく、選手間での競争がありました。試合や練習でのアピールによりレギュラーが入れ替わるため、部員全体が１つ１つのプレーに集中できたのではないかと思います。

昨年、一昨年と BK でのトライが少なく課題に感じていましたが、春シーズンを通して BK は安定してトライが取れたのではないかと思います。しかし、まだまだ技術的にもフィジカル的にも満足のいく内容ではありません。またリーグ戦になると BK が消極的になる傾向があるので、これから合宿を通し自信をつけ、思いきりのいい攻撃をしていきたいと思います。

立命館や慶應といった強豪と手応えのある試合をした一方で、防衛大や大阪市立大といった自分達と同等のレベルの相手との対戦の際は今ひとつ締まり切らず、有利な試合運びをするも勝ちきれなかったです。この事は春シーズンにおいて最も反省すべき点であると思います。

ここ数年の京大はＢリーグの下位にとどまっていたこと、また強豪との定期戦が多いためか負け癖がついており、接戦において勝ちきることができていないです。今年度はＣリーグでの戦いになることから、入れ替え戦を含め例年よりも同等のレベルの相手と戦う機会が増えるため接戦の試合も多くなります。そのために春シーズンの防衛戦にはしっかりと勝ちたかったのですが、自分達のミスで勝ちきることができませんでした。同等のレベルの相手にしっかりと勝つということを実践するため、夏合宿に向けて準備していきたいと思います。

最後に個人的な総括としましては、春シーズン終了の１週間前に顎の骨を折る怪我をしてしまい、春シーズンを最後までやりきることができなかったことが悔やまれます。キャプテンとして試合や練習において体を張るということは非常に大切な事だと自分は考えているので、秋シーズンは最後まで体を張りながらも怪我をせずチームを引っ張っていきたいと思います。

今年１年でＢリーグへ復帰し、後輩へ繋ぎたいと思います。また、数多くの ＯＢ の方々のご支援 があってこのクラブが成り立っていることを強く実感 したシーズンでもあり、厚く御礼を申し上げるとと も に、今後も更なるご支援、ご声援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

◆新任コーチより春合宿レポート◆

～河野哲彦コーチ（H14・ラ・サール）

本年度コーチ H14 卒の河野哲彦です。ＧＷに行った春合宿についてレポートします。

監督団は、メンバーが決まった１月からメールをやり取りし、チーム作りについてさまざまな意見交換をしていました。その時点では春合宿をする予定はありませんでした。３月に練習が始まり、スキルをメインに担当する神戸製鋼コンビの藤井コーチ、北川コーチともに「思ったより素質は良い」と感じる一方で、「基本中の基本スキルが驚くほどできていないことがある」との意見が一致していました。両名が「練習に毎回行けるわけでない中、基礎をみっちりと教えるまとまった時間がほしい」とおっしゃるのを聞いて、「ＧＷにミニ合宿やりましょうよ」と思いつきで言い出したのは私です。溝口監督は「ええよ、やろうや。」とすぐにＯＫを出してくださいました。誤算は「じゃ、さっそく合宿の計画作ってな！よろしく！」と言われたことですが…苦笑（案の定と言えば、案の定です）。

私は卒部以来、十数年ラグビー界をのたくっていて、レフリーとしてあちこちのチームの合宿に参加したことはありますが、ゼロから計画するのは初めての経験です。同じ会社にいる同志社大の山神前監督に過去の合宿メニューをいただいたり、監督コーチ経験のあるラグビー知人に聞いたりして四苦八苦で考えました。（参考までに次項に２日目のメニューを記載しています。）

主なポイントは以下のとおりです。

①最初のＫＯミーティングで、溝口監督、藤井ＨＣより合宿の目的と春の試合の位置づけを説明。

②朝は 6 時起床。最初は周辺の掃除（ラグビーをさせてもらえる環境への感謝の気持ちを形に出す）

③朝夜の補食、朝食はスポーツ栄養の資格を持つ和田マネが中心になって担当。昼と夜は体育会用の栄養計算がされた給食弁当を手配。（食事もトレーニングであるとの意識付け。和田マネはじめマネ大活躍でした）

④練習は、ＦＷ/ＢＫや縦割り等でチーム分けし、藤井・北川両コーチで分担して実施。例えば、Ａ・Ｂチームに分け、３０分毎にＡ：藤井練→北川練、Ｂ：北川練→藤井練というように回しました。（練習の効率アップはもちろん、動き続けることで試合に近い負荷をかける）

⑤怪我人はいつも以上のハードトレーニングを H13 卒で現役理学療法士の西村トレーナーによるプロ指導で実施（ケガしたらもっと強くなって帰ってくる。そしてケガしたくなくなる状況を。）

⑥午前２回目の練習は、現役時代にスクワット 400kg を挙げていた“マッスル”北川コーチによる基礎体力トレーニング。特に器具を使わずとも自重や階段を使って相当追い込むもの。普段からできる

						備考	必要物	to do	担当
day2	起床	6:00	1	補食摂取	バナナ、牛乳、オレンジジュース、ゆで卵			和田M考慮	和田M河野
	清掃	6:25	2	地域清掃	グラウンド周辺＆グラウンド内		ほうき、トング、ごみ袋、軍手	一部、河野会社より拝借	河野
	AM練①	7:00	3	練習	基本練習(藤井パス、北川ロンタクト)			メニュー作成	藤井、北川
		8:30	4	アフター	(ユニット)小集団ごと	15分間		小集団分け(キック、パス、スロー	現役幹部
	朝食	9:00	6					自炊→和田Mメニュー考	和田M、河野
	AM練②	10:00	7	ウエイト	北川＆西村塾	FW/BK分かれ			北川、西村、医健
	フォロー	11:00	8	ミーティング	4回生ミーティング				溝口、河野
	昼食	12:00	9	古座岩弁当3				和田M発注	和田M
	MTG	12:30	10	ミーティング	ADの目標確認		MTG資料(PPT) →目的・目標 →メンバー	資料作成	河野
	午睡	13:00	11			30分程度が理想的？		合宿所 ※スマホ禁止	
	PM練	14:00	12	合同練習 ・大阪学院大	基本練習(藤井パス、北川ロンタクト	30分		各チームでそれぞれアップ	藤井、北川
		14:30		・環太平洋大	ユニットセッション(FW/BK)	45分			
		15:30			AD	10分×6		3チーム2つ巴 →レフリー河野、真鍋(大院C)	
	更衣等	17:00			OBはドリンク飲みながら芝生で歓談			※飲料無料に	
	夕食	17:30	15	チームビルドBBQ	グラウンド・クラブハウス	OBのホームカミングイ	食材他	今林幹事 手配	今林さん
	就寝	21:00			→監督団はミーティングまたは帰宅	泊)溝口、河野、藤井、吉村(九大)			

追い込みを身を持って知る。ちなみに、傍から見ていてかわいそうでした…（笑）

⑦午睡＝練習合間の昼寝。最近、トップチームで取り入れられています（積極的な休息もトレーニング）

⑧私のレフリー仲間を通じて、大阪学院大（昨季Ｂに昇格）と環太平洋大（中国地区の強豪・地区対抗の常連）との合同練習を中日にセット。（相対的な実力を知る。基礎練だけだと飽きる）

⑨練習の合間は極力ミーティング。特に重要視したのは、仲は良いがコミュニケーションが苦手？な現役がすりあわせてこなかったチーム内の用語とその意味の統一。（「なんとなく」ズレていた共通認識と意識のすり合わせ）

⑩今年の改革のもう一つの柱、「スタッフの力を使う」。前述の食事はじめ、買い出しや練習準備などスタッフにも役割を与えて活躍してもらう。（自発的に女子マネもクラブハウスに泊りこんでくれました。）

⑪ホームカミングデーと称して、ＯＢの皆さんに現役の頑張りをみてもらうとともに、せっかくの芝生とクラブハウスを楽しんでもらう。（現役に支えてくれる人たちの存在を気づいてもらう。クラブとしての一体感の醸成。）

今年の監督団のコーチングの大方針を、敢えて言葉にするなら次のようになるでしょうか。

（１）食ったことないものは自分で再現できない。ラグビーでもラグビー以外でも、“ええもん”を食わせる。

（２）自主性が大前提。だが、うっかり「自堕落」にならないようオトナの介入すべきところは介入する。

神戸製鋼の元トッププレーヤー、同志社元監督、現役レフリー、また仕事の上でも人事部の偉いさんや会社経営者と、運よく監督団は多士済々が揃いました。一方で、ここしばらくの京大ラグビーは、ちょっとしっかりやっている高校出身者の高校ラグビーを持ち寄って、その時々のリーダーの個性に依存しすぎて行われていたのではないかと推察しています。ラグビー以外の運営にしても、“トレーナー“がケガ人の状況を聞かれても知らない、誰が練習に来るか把握できていない、勝手に練習を休む、監督団のお願い事は聞かれるまでやらない、ＨＰの更新はずっと止まったまま、複数ある facebook ページは更新がまちまち、などなど。楽しそうにはしているけど、「自由」と「自主性」が履き違えられて、いわば「自堕落」となり、とても試合に勝つための組織とはいえない状況でした。Ｃ落ちはそういうことの結実だと思います。

要するに今年は、不遜ながら語弊を恐れず言えば、ラグビーでもそれ以外でも“オトナ”である監督団が、「自由」の名の下に「“ええもん”を食ったことない」ままになっていた現役部員に、適宜介入していくということがコーチングの肝といえます。「“ええもん”を食ったことない」から知らないだけの現役は、やっぱり京大生。それぞれが持つ能力は日本でもトップレベルです。一度味わえば、再現するのはお手の物なはずです。「“ええもん”食わしたる」必要があるのです。

その方針のもと、３月のシーズンインから「挨拶」と「掃除」、「基本スキル」という大前提の基本方針を固めて、逐一気づいたことは口うるさく指摘していくという、一見京大らしからぬことを進めました（挨拶の励行は、溝口監督、北川コーチが強く推されました）。シーズン開始の３月から２ヶ月たって、そうした新しい取組みにも慣れて中だるみした頃に締め直す、という意味でもこの合宿は『肝』だと考えていました。

このように、今回の合宿には、みっちりと基本スキルを仕込みたいというテクニカルな側面と、京大ラグビーへの取り組み方を仕込みたいというマインドセットの側面、その両方の目的がありました。

ホームカミングデーのＯＢ先輩方の楽しそうな様子。今シーズンから取り組んできたパス攻撃が合宿の途中から実を結びはじめたこと。めちゃくちゃしんどい練習も笑いを交えてやりきる現役の姿。最後の円陣で話を聞くすがすがしい現役の表情。円陣が解けた後の歓声。たかが春合宿くらいでこんなことではいけませんが、四苦八苦して計画した苦労が報われた気がしました。

もし“ええもん”食えたのなら、彼らは京大らしい自主性をもって夏、そして秋と頑張ってくれるはずです。なんせ僕ら京大ラグビーの後輩ですから。

追記　春シーズン、私が試合の現場にいないことを揶揄なさるＯＢ諸氏がいらっしゃいました。当初から「レフリー活動を優先」と言う条件で引き受けていますし、活動によって KIU に還元している部分は少なくないと自負しております。ご理解をお願いします。そういうことも含めて、現場を預かる我々に「任せて」ください。船頭と自称・軍師が多いと、船が山に登ってしまうことを危惧します。

他大学との合同練習

基礎スキルの反復練習

基礎体力トレーニング

マネージャーによる食事準備

◆新人紹介◆　ひと言コメント

・筒井　雅裕　西大和学園　LO　工学部

身長には恵まれていますが、高校時代ラグビーをやっておらず、体も細いです。なので体をしっかりと作り、もっとラグビーを知って、頼り甲斐のあるプレーヤーになりたいと思います。

・仁木　大輝　天王寺　CTB　農学部

入学当初はラグビー部に入る気は全く無かったのですが、部活無しの大学生活は張り合いが無く退屈だったので何か打ち込めるものが必要だと感じ、そしてそれはやはりラグビーしかないと思い、結局ラグビー部に入部しました。早く試合で使ってもらえるように毎日の練習を頑張りたいと思います。

・濱本　伊武樹　六甲学院　FL　農学部

今年は筋トレして大学でも通用する肉体をつくります。また、フランカーは人数が多いので今のうちに先輩の技術を盗んで、来年、再来年試合に出た時に活躍できるようになりたいです。

・山田　康策　明和　PR、HO　経済学部

フロントローとしてはまだ体が小さいので、まずは大学で戦える体力、筋力をしっかりつけて、そのうえで少しでもＡチームの試合に出て活躍できるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

・山田　有基　旭丘　FB　工学部物理

自分はまだ身体が弱いのでしっかりウエイトして筋力をつけ、試合に出てチームの勝利に貢献できるようなプレヤーになりたいです。また、一回生が主体の試合ではキックを蹴ることになると思うので、精度の高いキックを蹴れるよう練習していきたいと思っています。よろしくお願いします。

・齊藤　卓也　旭丘　WTB　農学部食料環境経済

ラグビーは高校から始めました。ポジションはウイングです。大学では、まず第一に体を大きくすることが目標です。強くて速いウイングになれるよう頑張ります。

・原　彩斗　旭丘　SH　工学部地球

愛知県の尾張旭市出身で、小・中とサッカーをやって高校からラグビーを始めました。京都大学工学部地球工学科に合格し、また、ラグビーを始めることにしました。これから、精一杯頑張ります。

・伊藤　佳樹　明和　CTB　経済学部

一浪して入学しました。高校では CTB12 をやっていましたが、大学では No.8 をやりたいなと思っています。伝統ある京都大学ラグビー部の勝利に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いします。

・宮田　直輝　千葉　LO、FL　経済学部

高校では怪我のためにベストを尽くせないまま引退を迎えてしまったので、大学でもまたラグビーを続けようと決意しました。まだまだ体も小さいですが、伝統ある京大ラグビー部の名に恥じないようなプレーヤーに成長できるよう日々邁進したいと思っています。これからよろしくお願いします。

・宮田　墾　金沢桜丘　WTB、FB　工学部地球

高校ではWTBやFBをしていましたが大学ではセンターに挑戦しています。ワールドカップでみた史上最強のビーストと言われているニュージーランドのマアノヌー選手に憧れたからです。性格やプレースタイルもセンター向きだったこともあります。理想的なセンターとなるため、体重、パワー、パススキル、キックスキルすべてレベルアップさせレギュラーになりたいと思います！

・鹿取　温希　山口　SH　工学部物理

ラグビーは高校から始めました。大学ではコンタクトもフィットネスもより一層激しくなり課題も山積みですが、一つ一つプレーの幅を増やしていってラグビーを精一杯楽しみたいです。

・嶋貫　葵　仙台第三　MG　立命館大国際関係学部

私は高校時代もラグビー部のマネージャーをしていて、大学では他のスポーツを始めようと思い、色々と見学に行って見ました。しかし、やっぱりラグビー部のマネージャーをしたいと思い、現在に至ります。引退するまで、精一杯選手のサポートを頑張りますのでよろしくお願いします。

・山崎　春菜　富士見　MG　京都女子大家政学部

中高とバスケットボールを続けていましたが、大学ではプレーヤーではなくマネージャーとして頑張ってみようと思い京都大学ラグビー部に入部しました。サポートする側としてまだまだ未熟者ですが、精一杯頑張ります！

・光浪　夕莉　京都女子　MG　京都女子大

私自身、中高6年間バスケットボール部でほぼ毎日部活に励んでおりました。京都大学ラグビー部の個性豊かで面白い先輩やプレーのことになると集中し真剣に取り組む姿に惹かれて入部しました。マネージャーとして未熟ですが、まずはきちんとラグビーのルールを覚え、部活に貢献できるよう全力で頑張ります！

・吉田　枝莉樺　筑紫女学園　MG　京都女子大文学部

ラグビーは全くの初心者で、練習に参加するたびに新しい発見があり、とても充実した日々を送っています。これからもっとラグビーについて知識を増やすために勉強していきます。マネージャーとして京都大学ラグビー部に沢山貢献できるよう､がんばりますので、よろしくお願い致します。

◆春シーズン試合結果◆

４月２３日（日）新入生歓迎試合（於宇治G）
●京大１０－１９　京都工芸繊維大学
MOM　FW：山田 康策　BK：山田 有基
５月１４日（日）定期戦
●京大２０－３４　立命館大学（於宇治G）
MOM　有澤 善大（3回　仙台第二）
５月２０日（土）定期戦
●京大１８－５５　慶應義塾大学（於宇治G）
MOM　齋藤　瑞輝（3回　仙台第一）
５月２７日（土）練習試合（於関大G）
●京大０－８６　関西大学
６月　４日（日）定期戦（於防衛大G）
●京大Ａ２０－２４　防衛大Ａ
MOM　鈴木 賢人（2回　函館ラ・サール）
●京大Ｂ０－３１　防衛大Ｂ
MOM　林田 太助（4回　奈良女子大附）
６月１１日（日）練習試合（於宇治G）
△京大４０－４０　大阪市大
MOM　奥山 一慶（2回　茨木）
６月１７日（土）定期戦（於宇治G）
●京大２１－２９　関西学院大学
MOM　石田 貴一（2回　本郷）
※MOM：マン・オブ・ザ・マッチ
強化委員会が選出する試合で最も活躍した選手

◆合宿予定◆　８月菅平高原にて

宿泊ホテル：菅平高原・ホテル亀屋
〒386-2204　長野県上田市菅平高原1223-2254
８月１８日（金）AM・PM　vs北海道大学A・B
１９日（土）AM　vs東北大学A
２０日（日）AM　vsＯＢ戦
２１日（月）15:00KO　vs成城大学校定期戦
２２日（火）15:00KO　vs千葉大学B
２３日（水）AM　vs横浜国立大学A・B
２４日（木）10:00　vs上智大学A
※グランドは協議中です。詳細が決定しましたら、メールにてご案内いたします。また文末に記載のHPにて告知します

◆秋のリーグ戦と定期戦の日程◆

９月３日（日）　定期戦
vs同志社大学　KO未定　＠同志社大田辺G
９月１７日（日）第一節
vs 関西外国語大学　15時KO ＠大阪国際大学
９月２４日（日）第二節
vs 大阪国際大学　11時KO ＠大阪国際大学
１０月１日（日）第三節
vs 大阪市立大学　13時KO ＠京都大学
１０月１５日（日）第四節
vs 佛教大学　15時KO ＠大阪国際大学
１０月２２日（日）第五節
vs 流通科学大学　13時KO ＠大阪国際大学
１０月２９日（日）第六節
vs 大阪工業大学　13時KO ＠京都大学
１１月１２日（日）第七節
vs 帝塚山大学　13時KO ＠京都大学
１１月１９日（日）第八節
vs 大阪府立大学　13時KO ＠京都大学
１１月２６日（日）第九節
vs 甲南大学　13時KO ＠京都大学

１２月　日時未定
　Ｂ･Ｃリーグ入替戦
　九州大学定期戦（於宇治Ｇ）
　東京大学定期戦（於東大Ｇ）

◆フォトギャラリー◆

【５月２０日　VS 慶應大学（於宇治Ｇ）】

【６月１７日　VS 関西学院大学（於宇治Ｇ）】

撮影：岡本大和（Ｈ２３岡山城東）

◆ 連 絡 先 等 ◆

[redacted]

◆ 編集部より◆

　クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。また、こんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただくことになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今林浩史（H05）
村上睦明（H06）

クラブ便り

シーズン総括号　2018.1.31

平成 29 年度 第 3 号

京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆監督によるシーズン統括◆

～溝口正人監督（H02・神戸）

12 月 23 日の東大との定期戦をもちまして、特に大きな事故も無く今シーズンを無事終了出来ましたことを報告致します。会員のみなさまには、この一年間温かい励ましのお言葉、ご声援、そしてグランド内外における数多くのご支援を頂戴し誠にありがとうございました。現場を預かる者として、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

さて成績の方ですが、現役の部員たちは今期の目標としていた『B リーグ昇格』を見事成し遂げてくれました。この点は大いに誉めてあげてほしいと思います。しかしながら、定期戦の方は 1 勝 7 敗と大きく負け越し、特に入替戦後の九大、東大に連敗したことで、シーズンを気持ちよく終ることができなかったことは大いなる反省点です。では具体的に秋シーズンを振り返ってみます。

まず夏合宿について少し述べておきます。一昨年負けていた旧帝大勢に危げなく勝利出来たこともよかった点ですが、この合宿中のポイントは唯一の公式戦である成城大定期戦だったと思います。相手の力量は分からないものの、勝たなければいけないゲームという位置付けで臨みました。前半から取られて取ってを繰り返すシーソーゲームでしたが、後半の勝負どころでも集中力を切らさず 29-21 で勝利。勝たなければいけないゲームで、チカラの均衡した相手にキチンと勝ちきったことは、秋のリーグ戦に向けて彼らの大きな自信になったと思います。

秋シーズンは例年通り同志社大との定期戦で幕を開けました。前半途中までは善戦するも最終的には 10-60 と完敗。しかしながら得るものの大きいゲームであったと思います。何よりもリーグ戦開幕を２週間後に控えたこのタイミングで、A リーグのチームと強い強度で真剣勝負が出来ることは本当に恵まれていると感じます。

リーグ戦は台風の影響で初戦が延期となり、最も注意すべきチームのひとつである大阪国際大学が初戦の相手でした。初戦の緊張感、アウェイのグランド、そして何より挨拶する姿を見ていても分かる、よく鍛えられた相手選手達。予想通り最後の最後まで勝敗の分からないタフなゲームとなりましたが、何とか 24-19 で勝利することができました。今振り返っても、このゲームの勝利が今シーズンの結果に大きく繋ったと思います。

その後は順調に白星を重ね、迎えた第 7 節の帝塚山大戦。勝てば入替戦出場が決まる大事なゲームでしたが、リーグ戦初黒星を喫してしまいます。このゲームのあと私の頭の中に浮かんだのが、ラグビー十則のひとつ『Better Side Won』でした。勿論、新米監督の私ごときがラグビー十則を語るのは 10 年早いと言われるかもしれませんが、『Better Side Won』ってこういうことなのかなと初めて感じたゲームでした。勝敗を決するものには、ラグビーの実力だけでなく、グランド、天候、レフリング、モチベーション、準備、起用、展開などなど、数多くの要素があると思います。今でも実力で京大が帝塚山大に劣っていたとは思っていませんが、このゲームに関しての Better Side は帝塚山大だったと思います。そして、これらの要素には自分達ではどうしようもないこともあるように思いますが、そこで諦めてしまうのではなく、これらを味方にする為にどうすればいいのかを考え、やれる事は全てやらなければいけないと大いに反省させられた気がします。

この敗戦を糧に大阪府大、そして入替戦出場をかけた甲南大にいいカタチで勝利しリーグ戦を終了。結果は 8 勝 1 敗で C リーグ 2 位となり入替戦へ。そして、このゲームに勝利することができ、B リーグ昇格となりました。残念ながら、C リーグで優勝し近畿の代表として全国地区対抗ラグビーフットボール大会へ出場する事は出来ませんでしたが、何とか目標の B リーグ復帰を果すことができました。

この一年を振り返り今の気持ちは？と聞かれたら…

「しんどかったぁ。でも楽しかった！」でしょうか。右も左もわからない新米監督にこんなに楽しい思いをさせてくれた溝上組のみんな、お忙しいなか全くのボランティアで熱いご指導頂いたコーチ陣のみなさん、そしていつも変わらぬご声援を頂いた OB、保護者のみなさん、本当に一年間ありがとうございました。

さぁ、次は B リーグです。有澤組のみんな、もっとしんどく、もっと楽しい一年にしましょう！期待してます！

◆主将によるシーズン統括◆

～溝上永純主将（津）～

本年度主将を務めさせて頂きました溝上です。はじめに、1 年を通じて OB の皆様には多大なるご支援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。皆様のご支援があり、B リーグ復帰という最大の目標

を達成することができました。

今シーズンを振り返ると、入替戦である阪大戦をピークに、所々躓きましたがその躓きも成長の糧とし、順調にチームは成長できたのではないかと思います。その躓きというのは、春シーズン全く勝ち星がなかったこと、Cリーグ優勝をかけた帝塚山戦に負けたことです。

春シーズンに行われた慶応、立命館、関学といった強豪校相手との試合では、負けはしたものの手応えのある内容でした。しかし、自分達とレベルのあまり変わらないであろう阪大、大阪市大、防衛大といったチーム相手にはいい結果を残すことができませんでした。結果的に春シーズンは勝ち星がほとんどなく、勝ち切れないという自分達の最大の弱点が浮き彫りになったため、夏合宿では技術面、作戦面での向上は勿論ですが勝ち切ることを最大のポイントとしました。その夏合宿ではAチームは全勝を目標としていましたが、その中でも一番のターゲットは、昨年一昨年と完敗していた成城大との定期戦でした。この試合に勝ったことにより、自分達がやってきたことに対する自信だけでなく、勝つ際の自分達の雰囲気、戦い方を掴むことができました。

もう 1 つ自分達が変わるきっかけとなった帝塚山大との試合は、試合中におけるレフリーとの相性や、相手の徹底したモール攻撃により自分達のリズムを掴み切ることができずに負けてしまいました。リーグ戦を無事勝ち進む中で、自信をつけることができたのはいいのですが、それと同時に帝塚山にも勝てるだろうという気持ちが、チームにも自分にもあったかと思います。「京大は死ぬ気でやらないと勝つこと出来ない」と只井前監督に言われ続け、またそういった光景を四回生になるまで何度も目の当たりにしてきたにも関わらず、また同じことを繰り返してしまったと、とても情けなかったです。幸い B リーグ復帰への道は閉ざされていなかったため、その後のリーグ戦最終戦の甲南大、入替戦の大阪大に対しては帝塚山戦のときのような油断は生まれずしっかりと勝つことができました。

他にも順調に成長できた要因としては、各々の強さも勿論あったと思いますが、個人的には選手間のコミュニケーションが例年より増えたことが大きいのではないかと思います。新監督団のもと、試合後の練習の際に全体ミーティングが必ず行われましたが、それ以外にも選手間での話の中でもっとこうするべきだ、等の話が練習中、またそれ以外でも多くあったため、修正しながらシーズンを送ることができました。

シーズンを順調に送ることができ、無事Bリーグ復帰を果たすことができましたが、やはりまだ残してしまった課題もたくさんあります。技術的な課題は勿論ですが、今シーズンは溝口新監督のもと、掃除や挨拶といったところもしっかりやろう、と始まったのですがシーズンが深まるにつれてそういったところを蔑ろにしてしまい、OB の方から注意されることもありました。

他にも、最後の 2 試合であった九大戦と東大戦の両方に A チームが負けてしまったところに見られる、気持ちの弱さです。先ほど帝塚山戦に触れた際にも述べましたが、自分達は死ぬ気で戦わないと勝ちきることができないです。来年はBリーグで戦うため今シーズンよりも接戦が増えるので自分達が残してしまった甘さを徹底的に排除し、接戦を全て勝利して欲しいと思います。

後輩達は個人の能力も高く、また夏合宿まではほとんど勝つことができなかった B チームもシーズン終盤にかけて勝てるようになりました。Aチームで出ていたメンバーもほとんど残るため、自分達が残してしまった課題をなくし、努力を積み重ねることができれば B リーグでも良い結果を残せると思います。来季、自分は現役を引退しますが OB として、主将の経験を生かし後輩達をサポートしていきたいと思います。４年間誠にありがとうございました。

◆5年目のシーズンを終えて◆

～志村大智（H29・甲陽学院［昨年度主将］）～

新年おめでとうございます。H29 卒の志村です。はじめに、本稿執筆の機会をいただきましたことを感謝申し上げます。クラブ便りの発行にあたり、今年一年どんな思いで試合に出続けたのかを綴って欲しいとのご依頼をいただき、恐縮ではございましたが、引き受けさせていただきました。自分よりも適任者がおられるとは存じますが、５年目のシーズンを終えたいまの率直な気持ちを、この場をお借りして綴らせていただきたいと思います。

昨年度、自分が主将を務めていた京大ラグビー部が、２１年ぶりにＣリーグに降格しました。一度引退してからも、この事実はとても重くのしかかっていました。５－６で敗戦し、入替戦出場が決まった大雨の神戸大学戦。追手門学院に大敗し、降格が決まった入替戦。この２試合を思い出さない日はありませんでした。当然、自分が招いた結果ですので、一生背負って生きていくでしょう。しかし、最初は「助っ人」という立場でしたが、今年度になっても春シーズンから少しずつ試合に呼んでいただくうちに、気づけば「自分なりに去年の結果にケリをつけんとなぁ」という想いが生まれてきました。

言ってみれば、そんなものは、ある意味エゴであり、ただのワガママかもしれないという思いもありました。ただ、自分が降格させておきながら、後は

がんばれ、ではあまりにも無責任な気もしました。そこで自分なりにチームの手助けが出来ればと思い、研究の合間を見計らってグラウンドに顔を出すうちに、気づけばリーグ戦で１番のジャージを着ていました。明確にいつ現役復帰した、というのもなく「流れ」だったのですが、自分にとってはこの上ない形でケリをつけるチャンスをいただいたと思っています。

リーグ戦中は、入替戦勝利の瞬間をひたすらイメージして、日々モチベーションを保っていました。試合を重ねるごとに、そのイメージが段々鮮明になっていく実感もありました。多くのサポートもあり、チームは上昇気流に乗り、入替戦をピークの状態で迎えることができました。そして、チームとしてシーズン一番のパフォーマンスで昇格が決まったあの日も、自分にとって忘れられない１日に追加されました。その頃には、多少の気負いもありましたが、このチームでラグビーが出来ることを存分に楽しんでいました。

それなりにいい形でシーズンを終えることが出来たいま、実は達成感というものはあまり無く、ただただ多くの方々に感謝しています。まずは、もう一度自分をその気にさせて、リベンジのチャンスをくれた監督団と首脳陣。そして、研究もあって毎日グラウンドに来られるわけでも無く、その上、自分が試合に出ることでジャージを着られなくなる部員が出てくるにも関わらず、こんな自分を快く受け入れてくれた後輩たち。彼らがいつも気兼ねなく接してくれたおかげで気持ちよくラグビーが出来ました。さらには、Bリーグにまで戻してもらって、彼らには一生頭が上がりません。また、いつもお会いするたびに声をかけて下さる OB さんや父兄の方々にも、とても励まされていました。陰ながら応援していただいた方々も含めて、改めて皆様に感謝申し上げたいと思います。そして、こんな丈夫な身体に産んでくれて、ここまで育ててくれた両親にも心から感謝しています。

この１年で多くのことを学びました。もちろん５年目でもプレー面での成長はたくさんありました。ただ、昨年度の降格を経て迎えた、今シーズン最大の収穫の一つは、ラグビーという競技の本質に少し近づけたのではないかということです。昨年度までは、「自分が何とかせなアカン」「自分のパフォーマンス次第でこの試合の勝敗さえ決まる」といったような、思い上がりにも近い考えでラグビーに臨むことがありました。確かに、そのくらい熱く燃える気持ちを持って相手と対峙することも時には必要かもしれません。しかし、もっと大事なのは「隣のヤツを信じて任せること」。これこそがラグビーの真理なのではないかという考えにも至りました。自分が信頼してもらうために身体を張る、そして味方を信じて任せる、その上で自分の役割は責任を持って全力で果たす。１５人がそれぞれこういった思いを持って、個々の強みを存分に発揮できるチームが、いわゆる強いチームなのだと思います。ラグビーは一人では出来ません。味方のために自己を犠牲にする。その局面の積み重ねがトライに繋がる。だからこそラグビーは面白い。その部分に、自分としてはラグビーの価値を見出すことができました。

実は、心残りもあります。それは、最後の東大戦を A，B ともに勝って終えられなかったことです。あの試合は、自分としては４回生のための試合だと位置づけています。自分が降格を経験したのに、前を向いてまた頑張れたのは、自分の代の最後の東大戦でみんなが勝たせてくれたことが大きかったと思います。そういう意味では、今年度の４回生を勝って送り出してやれなかったことは残念でした。個人的にも、シーズン終盤にかけて多少、失速の感があり、満足して引退することは出来ませんでした。ただ、今となっては、これくらいの気持ちで終わっておいた方が、次のステージでより一層頑張れると思っています。ラグビー面でも、まだまだ成長できる実感があります。年末年始、テレビでラグビーを観ていると、もうウズウズしている自分がいました。来年度は、濃紺のジャージの１番は後輩に受け継いでもらうつもりですが、ラグビーはできる限り続けたいし、これからもラグビーには携わっていきたいと思えるような５年間でした。

◆新勧状況とリクルート活動へのご協力お願い◆
～強化委員会リクルート担当　村上睦明（H06）～

常日頃の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。強化委員会のリクルート関係を担当する村上睦明(H６卒)です。

毎年のことではありますが、春シーズン突入前の今の時期は、各選手の身体作り、新チーム構想等準備を除けば、新人勧誘に向けて情報集めが重要な時期です。OB 諸氏の皆様から提供していただいた情報を元に、学生が新１回生を勧誘して参ります。近年、大学全入時代と言われ、他大学では我が京大ラグビー部に比べて遥かに選手の獲得がしやすい状況にあり、このままではディスアドバンテージが広がっていきます。何卒継続して未来の京大ラガーマンを育てていく長い目でのご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。その為にも新歓の時期だけではなく、年間を通じて OB の皆様の出身高校への訪問もお願いさせて頂きたく存じます。

また、現在の部員数は近年、僅か４０名前後で推移しており、素晴らしいラグビー経験者は多いですが、未経験者の入部者数が少ない状況があり、人数

を増やす為にも、他スポーツ経験者にも積極的に声をかけていく必要があります。

以上を踏まえまして、努力を積み重ねて参りたく存じます。宜しくお願いします。

～新勧代表　音成兼光（新３回生兵庫）～

2018 年度、新歓代表を務めさせていただく音成兼光です。現在は、薬学部薬科学科 2 回生でポジションは主にスクラムハーフをしています。来シーズンは沢山試合に出て実戦経験を積むことを目標の一つとしているため、試合の応援に来ていただいた際には是非とも 9 番のプレイヤーに注目していただきたいと思っております。

さて、本題である新歓の来年度の目標に移りたいと思います。目標としてこの場で具体的な数字や理想を掲げるのもいいのですが、これまで過去数年間の新歓レポートを拝見させていただくと、毎年同じような目標設定をして大体同じような反省が出ているという分析結果に至りました。これは非常に良くない結果だと私は捉えています。新歓はチームの基礎となる人材の確保というとてもとても大きなイベントであって、もっと改善や工夫を凝らし、部全体が必死になって部員やスタッフを集めるようにならないと、B リーグ上位、そして A リーグ昇格という大目標は達成できないと思います。これを踏まえて、来年度の新歓はより多い新入生とコンタクトをとって、部員を増やす可能性を広げるために、私が指揮を執って効率の良い新歓活動を実施していきたいと考えております。チーム一丸となって頑張っていきます！

◆フォトギャラリー①◆

【9 月 3 日同志社大学定期戦（於同志社大 G）】

撮影：岡本大和（Ｈ２３岡山城東）

◆秋シーズン試合結果◆

①９月３日（日）　定期戦（於同志社大 G）
●京大１０－６０　同志社大学
MOM※1：桑田智史（2 回生、大手前）SO

②９月２４日（日）　リーグ戦第二節（於大国大※2）
○京大２４－１９　大阪国際大学
MOM：鈴木賢人（2 回生、函館ラ・サール）No.8

③１０月１日（日）　リーグ戦第三節（於宇治 G）
○京大４２－７　大阪市立大学
MOM：小川拓朗（4 回生、西大和学園）LO

④１０月７日（土）　練習試合（於大国大）
●京大５－４０大阪国際大学

⑤１０月８日（日）　リーグ戦第一節（於大国大）
○京大４０－５関西外国語大学
MOM：桑田 智史（2 回生、大手前）SO

⑥１０月１５日（日）リーグ戦第四節（於大国大）
○京大５３－５佛教大学
MOM：奥山一慶（2 回生、茨木）FL

⑦１０月２２日（日）リーグ戦第五節（於大国大）
○京大７３－０流通科学大学
MOM：林田太助（4 回生、奈良女子大附）WTB

⑧１０月２９日（日）リーグ戦第六節（於宇治 G）
○京大４０－７大阪工業大学
MOM：沼田章良（3 回生、大手前）FB

⑨１１月５日（日）練習試合（於宇治 G）
●京大０－１９追手門学院大学
○京大１４－７滋賀大学

⑩１１月１２日（日）リーグ戦第七節（於宇治 G）
●京大２９－３４帝塚山大学
MOM：齋藤瑞輝（3 回生、仙台第一）PR

⑪１１月１９日（日）リーグ戦第八節（於宇治 G）
○京大７２－０大阪府立大学
MOM：石田貴一（2 回生、本郷）FL

⑫１１月２６日（日）リーグ戦第九節（於宇治 G）
○京大３９－７甲南大学
MOM：森本勇輝（3 回生、神戸）HO
溝上永純（4 回生 津）WTB

⑬１２月２日（日）練習試合（於宇治 G）
○京大Ｂ２０－１０京都大学医学部

⑭１２月９日（土）ＢＣリーグ入替戦（於万博Ｇ）
○京大２７－１４大阪大学
MOM：溝上永純（4 回生 津）WTB
小川拓朗（4 回 西大和）LO

⑮１２月１７日（日）定期戦（於宇治 G）
●京大Ａ１０－２１九州大学Ａ
MOM：関根諒（３回 日比谷）WTB
○京大Ｂ２４－１２九州大学Ｂ
MOM：原彩斗（１回 旭丘）SH、SO

⑯１２月２３日（土）定期戦（於東京大学）

●京大Ａ１８－２１東京大学Ａ

MOM：竹田将克（３回 膳所）SH

○京大Ｂ２７－１９東京大学Ｂ

MOM：山田有基（１回 旭丘）SO

※１MOM：マンオブザマッチ

強化委員会が選出する試合で最も活躍した選手

※２大国大：大阪国際大学松下町グランド

◆平成 30 年度の新三役等◆

主将：有澤　善大（仙台第二　CTB）

副将：齋藤　瑞輝（仙台第一　PR ）

主務：岡村　洸篤（西大和　WTB）

FW リーダー：森本　勇輝(神戸　HO)

窪田　悠斗(吉田　LO)

BK リーダー：竹田　将克(膳所　SH)

会計：石井　大智（須磨　PR）

スローガン：**hungry**

◆ 連 絡 先 等 ◆

[redacted]

◆ 編集部より◆

クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。また、こんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただくことになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今林浩史（H05）

村上睦明（H06）

◆フォトギャラリー②◆

【11 月 12 日帝塚山大学戦（於京大宇治 G）】

【11 月 26 日甲南大学戦（於京大宇治 G）】

撮影：岡本大和（Ｈ２３岡山城東）